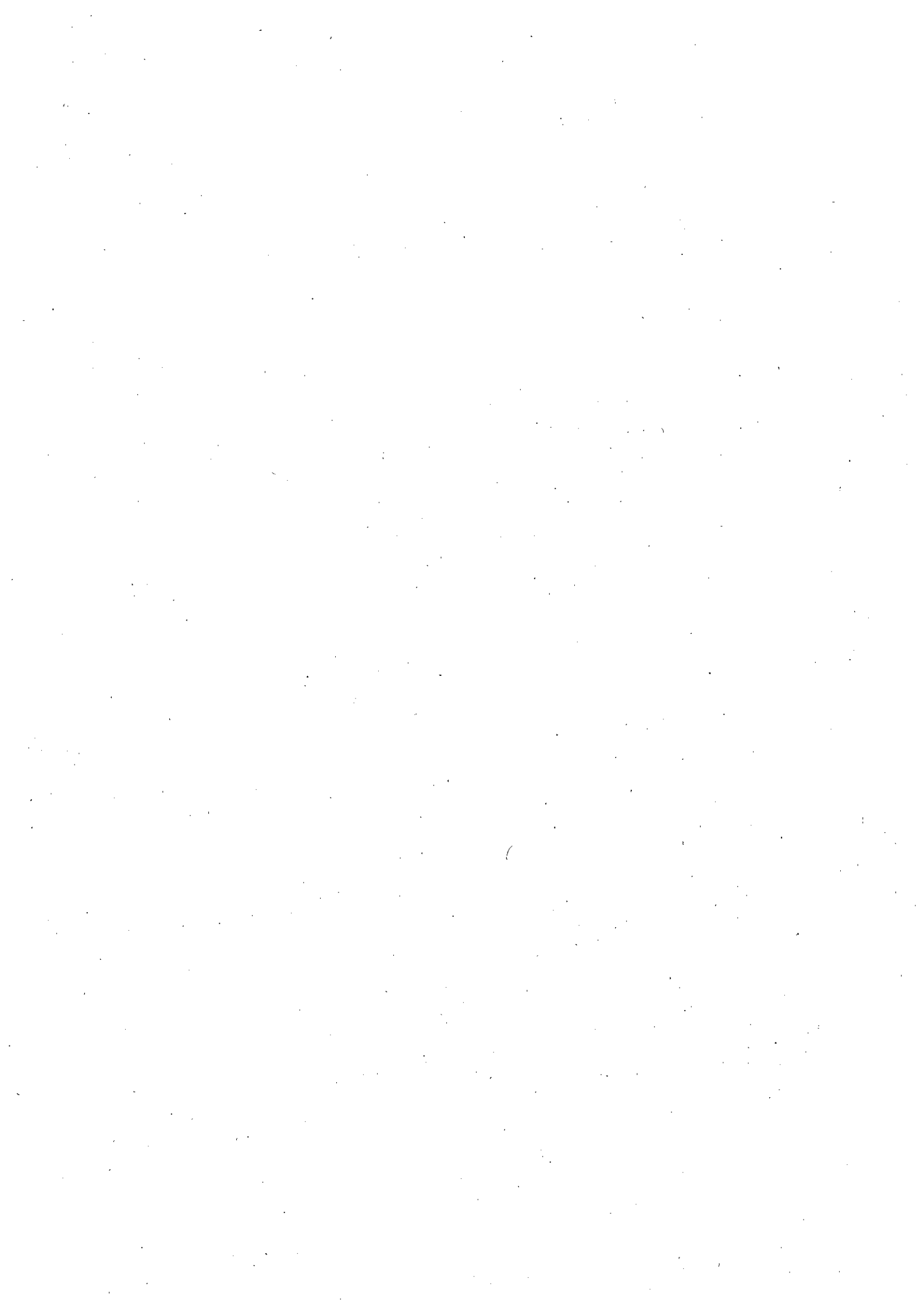


**福島県公立大学法人の業務の実績
に関する評価結果報告**

令和6年9月

福島県



目 次

I 公立大学法人福島県立医科大学の業務の実績に関する評価結果

1 令和5年度における業務の実績に関する評価結果

第1 「全体評価」	1
第2 「項目別評価」	3

2 第3期中期目標期間（平成30年度～令和5年度）における業務の実績に関する評価

第1 「全体評価」	11
第2 「項目別評価」	13
項目別評価 総括表	25

II 公立大学法人会津大学の業務の実績に関する評価結果

1 令和5年度における業務の実績に関する評価結果

第1 「全体評価」	41
第2 「項目別評価」	42

2 第3期中期目標期間（平成30年度～令和5年度）における業務の実績に関する評価

第1 「全体評価」	49
第2 「項目別評価」	50
項目別評価 総括表	59



公立大学法人福島県立医科大学の令和5年度業務の実績に関する評価結果（年度評価）

第1 「全体評価」

公立大学法人福島県立医科大学（以下「法人」という。）においては、平成18年度の法人化以降、法人化のメリットを生かした以下の特色ある運営がなされている。

- ・ 理事長のリーダーシップによる迅速な意思決定に基づく、組織、人事、予算などの面での自由度をいかした自主的・自律的な運営
- ・ 学外者や専門家の幅広い見地と地域社会のニーズ等を踏まえた運営

第3期中期目標期間の6年度目（最終年度）となる令和5年度の業務実績について、法人による自己評価は次のとおりである。

全項目（224項目）中

「A：年度計画を上回って実施している」	20項目（8.9%）
「B：年度計画を予定どおりに実施している」	199項目（88.9%）
「C：年度計画を下回って実施している」	5項目（2.2%）
「D：年度計画を大幅に下回って実施している」	0項目（0.0%）

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故、さらには、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続く中で、役員会、経営審議会、教育研究審議会等の法人内組織や教職員が相互に緊密な連携を図りながら、法人を挙げて中期目標の達成に向け、人材育成や研究、保健・医療の提供、地域貢献に積極的に取り組み、県民の保健・医療・福祉の向上に貢献していることは、高く評価できる。

また、東日本大震災等からの復興を進めるため、県民健康調査を始めとする県民の心と体の健康を守るための各種事業に積極的に取り組んだことや新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、福島県の中核医療機関として尽力していることは、法人の社会的評価を大いに高めている。

財務状況に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、物価・光熱費の高騰、為替の影響による医薬品・診療材料費の高騰等により厳しい運営環境であったが、効率的な病床運用を行う等、更なる経営改善に取り組み、附属病院収益を増加させた。

こうした取組について評価するとともに、引き続き、安定的な運営の確保、経営効率化に取り組まれるよう、さらに期待する。

1. 福島県立医科大学

福島県立医科大学は、令和3年4月の保健科学部開設により、3学部6学科を有する医療系総合大学となり、令和5年4月には別科助産学専攻を開設し、豊かな人間性や倫理観、コミュニケーション能力を備えた地域医療に貢献する医療人の育成、学生への各種支援、県内医療確保のための医療機関への医師派遣や専門知識を活用した医療教育活動等の地域医療施策、海外大学との相互交流や海外研究支援による国際交流の深化、独創的で質の高い研究を推進するための環境整備に取り組んでおり、評価できる。

2. 大学附属病院

特定機能病院である大学附属病院（以下「附属病院」という。）では、全人的・統合的な医療の提供等のため、法人化を機に医学部附属病院から大学附属病院と

なり、病院機能評価の認定や都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、救命救急センターやドクターヘリ、臨床腫瘍センター、性差医療センター、リハビリテーションセンターの運営、一般病棟における7対1看護の実施、臨床研修の充実、医療の高度化や質の高い医療の提供を支える人材育成、双葉地域の医療体制への支援等、高度・先進医療、患者の安全管理と患者サービスの向上、地域医療との連携等に取り組むとともに、病院長を中心としたガバナンス体制の下で医療安全の確保に取り組んでいる。

また、新病棟（みらい棟）において、救急医療、災害・被ばく医療、子ども・女性の医療の充実を図っているほか、東北地方では初の導入となった先端的なハイブリッド手術室やMRI手術室において最新医療を提供し、本県の医療水準の向上に努めるとともに、病院長を中心に、医業収益の確保に努めており、評価できる。

3 会津医療センター

大学の附属施設として教育研究の一端を担うため、大学と連携した医学部及び看護学部の学生の臨床実習を行う等、人間性豊かな優れた医療人の育成に努めている。また、高度で先進的な医療を推進し、地域医療拠点として会津地域の医療向上に資するため、病院機能評価の認定、病院機能の充実、地域の医療機関との連携強化、地域医療支援等に取り組むとともに、病院長を中心に、医業収益の確保に努めており、評価できる。

4 東日本大震災等の復興支援

本県復興を担う高度な知識や技術等を備えた医療人を育成するための教育プログラムの実施、県民健康調査や市町村等との連携による被災者の心のケアの推進、医療関連産業の復興関連プロジェクト支援に向けた研究や、放射線医学の教育研究を推進している。また、本県医療分野の復興拠点である「ふくしま国際医療科学センター」において、復興を医療面と健康面から支える取組を進めていることに加え、令和5年4月に福島国際研究教育機構(F-REI)と連携協力に関する基本合意書を締結し、「放射線科学・創薬医療」、「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信」等の分野において、連携・協力を積極的に進めており、評価できる。

令和5年度の業務実績（項目別評価）は以下のとおりである。

	十分に実施	おおむね実施	下回って実施	大幅に下回る
教育研究等の質の向上	○			
教育	○			
研究		○		
地域貢献	○			
国際交流		○		
大学附属病院	○			
東日本大震災等の復興支援	○			
県民健康の保持・増進	○			
復興支援	○			

放射線医学の教育研究	○			
関係機関との連携・協力	○			
管理運営の改善及び効率化		○		
業務運営の改善、効率化		○		
財務内容の改善		○		
自己点検・評価等		○		
その他業務運営		○		

第2 「項目別評価」

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「I：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

(1) 教育に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△

- ① ○ 国家試験の合格率について、医師国家試験及び保健師国家試験において、目標値を上回る結果であった。特に、医師国家試験の合格率は全国平均値を上回っており、大いに評価できる。看護師国家試験においては、目標値には及ばなかったが全国平均値を上回った。
 医師国家試験(新卒) 実績 97.7%(目標値 95%以上 全国平均 95.4%)
 保健師国家試験 実績 97.6%(目標値 95%以上 全国平均 97.7%)
 看護師国家試験 実績 96.3%(目標値 100% 全国平均 93.2%)
- ② ○ アドミッション・ポリシーをホームページや大学案内に掲載したほか、進学説明会や大学見学、オープンキャンパス等で大学が求める学生像の周知を図り、目的意識を持った学生の確保に取り組んだ。
- ③ ○ 入学者選抜について、医学部の地域枠における募集人員の見直しや看護学部の入学者の入学後の成績を踏まえた面接評価方法の見直しについて検討を行った。
- ④ ○ 入学者選抜の面接試験について、医学部では個別の検討部会にて面接の評価方法の検討を行った。看護学部では、面接評価基準、面接の実施方法について、検討を実施した。保健科学部では、推薦型選抜の募集人数の検討や一般選抜での出題科目の変更、各科目の配点の見直し等の検討を行った。
- ⑤ ◎ 医学部のOSCE(臨床実習開始前の学生に必要とされる技能と態度を客観的に評価する実技試験)について、スキル・ラボラトリー(診療技能を修得するための施設)を活用して、学生の自学自習を促進した結果、合格率は99.3%となり、目標を上回った。
 また、教員に対しても、OSCE評価者研修の積極的な受講呼びかけ等により、試験に関わる教員を増やす取り組みを行った。
- ⑥ ○ 各種奨学金の募集情報や高等教育の修学支援新制度等、経済的支援に関する情報を随時周知し、学生への支援体制の充実を図った。
- ⑦ ◎ 看護学部就職希望者の就職率(目標値:100%)について、100%を維持

している。学生の自主学習を支援するため、セルフラーニンググループの利用推進や、就職情報コーナーを設け国家試験受験対策に関する情報提供を行う等の効果的な取組を行っている。

- ⑧ ◎ 保健科学部において、包括連携協定に基づき飯舘村の高齢施設で臨床実習を行ったり、福島市・小野町等の地域活性化、健康増進事業に協力したりする等、地域貢献に取り組んだ。
- ⑨ ○ 保健科学部大学院設置に向け、大学院保健科学系研究科設置準備委員会により検討を重ね、令和6年3月に文部科学省に申請が受理された。
- ⑩ ◎ 大学院看護学研究科助産師コース及び別科助産学専攻の開設に向け準備を進め、計画どおり令和5年4月に開設した。学生の令和5年度助産師国家試験合格率は100%を達成した。
- ⑪ ○ 会津医療センターにおいて、臨床実習に実習生が主体となって現場に積極的に関与する実習を行った結果、実習生から高い評価を得た(アンケートにおける満足度、4点満点中3.7点以上)。

(2) 研究に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 学内研究者に対して競争的資金の公募情報を速やかに周知するとともに、事務局で申請書の事前チェックに継続的に取り組み、採択件数の増加を目指し、厚生労働省科学研究費補助金については目標を上回ったが、その他の事業は下回った。
AMED (国立研究開発法人日本医療研究開発機構) 事業は、医薬品や再生・細胞医療・遺伝子治療等の分野の研究開発が中心ということもあり採択件数が目標を下回っており、件数増加に向けた検討等を期待する。
文部科学省科学研究費助成事業 件数 371 件
(目標値:年間 380 件以上)
厚生労働省科学研究費補助金 件数 26 件
(目標値:年間 20 件以上)
AMED事業 件数 30 件
(目標値:年間 50 件以上)
- ② △ 研究の国際化を推進するため、英文校正に精通した非常勤職員の雇用や民間会社へ英文校正を委託する等、質の高い英語論文の作成支援環境の充実に取り組んだが、新型コロナウイルス感染症流行下においては、論文の土台となる研究等に時間を費やすことが困難だったこともあり、英語論文数は837編(目標値:年間1,000編以上)と目標を下回った。
- ③ ○ 実験動物研究施設の設備更新工事が終了し、全面運用を再開して、施設の円滑な管理運営を図っている。
- ④ ○ 臨床研究センターにおいて、特定臨床研究の開始に向けて、計画策定段階の支援を行った。また、業務を担当する職員を新たに採用し、

支援体制の充実を図った。

- ⑤ ◎ 国際発酵・醸造食品産業展への初出展や、バイオジャパン 2023、メディカルクリエーションふくしま 2023 への出展、企業向けプレゼンテーション等を行い、共同研究実施に向け、産業界へ積極的に働きかけを行った。

(3) 地域貢献に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和 5 年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ 県や地元新聞社と連携しながら、県民向けの公開講座や出前講義、動画配信等を行い、県民に対する健康喚起に努め、健康増進に貢献する取組を推進した。
- ② ○ 県と連携し、学生がん予防サポーター養成事業として、県内大学を対象にがん教育出前講座を実施し、保健・医療教育活動に貢献した。
- ③ ◎ 「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」への継続的参加を促進するため、郡山女子大学と共同したイベントや、アクアマリンふくしま共催によるサマースクールの開催等、様々なコミュニケーション活動を計画的に実施した。
- ④ △ 会津医療センターにおいて、産学官連携による共同研究促進のための奨学寄付金等、外部資金公募の周知を積極的に行い、外部資金の受け入れを促したが、新規受付件数は 26 件（目標値：40 件）となり、目標を下回った。
- ⑤ ◎ 医療機関からの非常勤医師派遣依頼 1,728 件に対し、対応件数 1,479 件、対応率 86%（目標値：対応件数 1,000 件以上、対応率 84%以上）と目標を上回り、地域医療の確保に継続的に貢献している。
- ⑥ ◎ 地域の関係医療機関等との連携により、指導医セミナーを 12 病院で開催、計 330 名が参加し、地域医療を支える人材育成や県内定着への促進に取り組んだ。
- ⑦ ○ 看護師特定行為研修における研修生や修了生を対象とするフォローアップセミナー実施や、病院と合同での普及啓発講習会開催等により、地域におけるチーム医療の中心となる看護師の育成に取り組んだ。また、特定行為研修指導者講習会を開催し、指導者の確保に努めた。

(4) 国際交流に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和 5 年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 新型コロナウイルスの影響により中止していた海外協定校との学生派遣・受入を令和 5 年度から再開し、10 名を派遣、3 名を受け入れた。また、研修医の海外短期研修を再開し、3 名を派遣した。
- ② ◎ IAEA（国際原子力機関）との協力（「人と健康」の分野）に関する覚書について 5 回目の更新を行い、協力活動を継続している。また、「2024 年『県民健康調査』国際シンポジウム」をハイブリッド方式（対面及びオンライン）で開催し、調査結果や最新情報の発表・討論を行い、

世界に向けた情報発信を強化した。

- ③ △ 海外に滞在する学生に求めている連絡先の確認や情報提供について届出がない者がおり、学生の意識の更なる啓発や届出の徹底を推進する必要がある。

(5) 大学附属病院に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ 特定の看護分野において優れた知識と技術を持つ、専門看護師及び認定看護師の資格取得3名（目標値：中期目標期間終了時まで12名以上）、特定看護師育成6名（目標値：年2名以上）等、専門領域を考慮した水準の高い人材育成への取組が着実に成果につながっている。
- ② ◎ 放射線関係の全国規模の各種学会へ職員を派遣し、研究成果の発表や新しい知識・技術の習得等、スタッフの資質向上に努めた。また、第一種放射線取扱主任者免許資格を1名が取得したほか、医療安全管理者講習会を1名が受講し認定を取得する等、放射線治療に高い専門性を持つ有資格者の計画的な育成に取り組んだ。
- ③ ○ 先進医療の認可申請数は4件（目標値：年1件以上）となり、中期目標期間において初めて目標を達成した。また、新たに医薬品としての承認を目指し実施される治験においては、企業治験は99件、医師主導治験は12件実施中であり、先進医療の促進を図っている。
- ④ ○ 事前診察予約の迅速処理や返書続報の徹底、連携登録医制度や病院訪問による患者紹介・逆紹介の推進、多職種共同による転院支援等を行い、新型コロナウイルス感染症の影響により低下していた紹介率は88.5%（目標値：90%以上）、逆紹介率は77.6%（目標値：80%以上）まで回復した。
- ⑤ ○ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、病床利用率は78.0%（目標値：中期目標期間終了時まで87%以上）と目標には届かなかったが、一般病床の平均在院日数は12.5日（目標値：中期目標期間終了時まで13日以下）となり目標を達成した。各診療科への通知や目標を下回る診療科への個別ヒアリングを実施する等、目標達成に向け努めた。
- ⑥ ○ 医薬未収金について、発生防止及びマニュアルに基づく督促を実施した。早期の電話催促や、過年度未納者に対する再督促等により回収率の向上に取り組んでいる。
- ⑦ ○ 医薬品の購入経費抑制に当たり、薬事委員会を開催し、後発医薬品への切り替えを行ったほか、ベンチマークデータを活用しながら業者との価格交渉に取り組んだ結果、医薬品・診療材料費の大幅な縮減が図られた。
- ⑧ ◎ 会津医療センターにおいて、臨床研修指導医講習会の受講を積極的に促した結果、受講率は87.8%（目標値：81.6%）となり、目標を達成した。
- ⑨ △ 会津医療センターにおいて、関係医療機関等と協力・連携し、合同説明会への参加や病院見学の受入れ等を積極的に行い、研修者の確保

に努めたが、初期研修医の充足率は40%(目標値:60%以上)であった。専門研修プログラムと鍼灸研修生については計画どおり採用した。引き続き、センターの独自性を発揮し、地域医療を担う人材の育成を期待する。

- ⑩ ◎ 会津医療センターにおいて、事務局と各診療科の連携による積極的な患者の受入れを行った結果、手術技術の難しさや所要時間等から区分される、手術難易度AからEのうち、手術難易度が高いD以上の割合は72.2%(目標値:70%以上)となり、高度で先進的な医療の提供を推進した。
- ⑪ ◎ 会津医療センターの紹介率は83.4%(目標値:70%以上)、逆紹介率は71.9%(目標値:50.0%以上)となり、いずれも開院以来、最も高い数値となった。
- ⑫ ○ 会津医療センターの病床利用率は77.3%(目標値:中期目標期間終了時までには85%以上)と目標には届かなかったが、一般病床の平均在院日数は11.4日(目標値:中期目標期間終了時までには13日以下)となり、目標を達成した。病床利用の更なる効率化に向け、ベッドコントロールセンター設置の検討会WGを設置し、検討を始めた。
- ⑬ △ 会津医療センターにおいて、全職員を対象にレセプト査定状況等の研修会を2回開催し、保健診療のルール周知を図ったが、査定率は0.46%と前年度(同期0.45%)を上回る結果となった。
- ⑭ ◎ 能登半島地震の被災地へ、延べ24名のDMAT隊員を派遣し、支援を行った。

2 東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「I: 年度計画を十分に実施できている」と認められる。

(1) 県民の健康の保持・増進に関する目標を達成するための措置

【評価】「I: 年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 情報管理等の専門家から助言を受け、県民健康調査データ管理システムの円滑な運用を図っているほか、調査データを学術研究等に有効活用しながら県民健康調査を推進した。
- ② ◎ 県民健康調査推進のため、次の取組を実施した。
 - ・ 基本調査の回答率向上に向け、甲状腺検査会場において問診票の書き方支援を行った。
 - ・ 健康診査について市町村等と調整して見直しを行うとともに、帰還状況等を踏まえて新たに双葉町内で実施することとした。
 - ・ 甲状腺検査受診者の利便性向上のため、県内外の検査実施機関の整備を図るとともに、休日検査を9日、夜間検査を6日実施した。
 - ・ こころの健康度・生活習慣に関する調査について、回答内容から支援が必要な方へ電話支援又は文書支援を実施するとともに、健康に不安を抱える方からの電話相談に応じる等、こころのケアにつながる取組を推進した。

- ③ △ 先端臨床研究センターにおけるPET検査の件数は2,868件(目標値:3,600件)となり、目標を下回った。受診勧奨や受託検査実施等に取り組んでいることから、件数増に期待する。

(2) 復興支援に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ 福島医薬品関連産業支援拠点化事業において開発した技術を用い、インフルエンザに対する抗体の取得と同定が進んでおり、創薬事業化を目指している等、引き続き、医療関連産業の創出・振興に向けて取り組んでいる。さらに、浜通りサテライトに福島TR財団が入居し浜通り地域等の医薬品関連産業の集積を推進するとともに、TRセンター発ベンチャー企業の第5号が設立される等、雇用創出に寄与した。
- ・ 雇用者総数76名(目標値:中期目標期間中に54名以上)
 - ・ 浜通りバイオ産業推進フォーラムの開催回数1回(目標値:各年度1回以上)
- ② ◎ 新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、ふたば医療センター附属病院へ医師派遣を計画どおり行い、地域に必要な医療の提供に取り組んだ。また、県内避難者及び帰還住民へ広報誌を配布による健康情報や双葉郡内の診療実施状況の周知、認知症初期集中支援チーム員会議の開催支援、町村職員等への研修会開催等を行い、双葉地域における健康づくりに貢献した。

(3) 放射線医学の教育研究等に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ◎ 先端臨床研究センターにおいて、アスタチンを用いた悪性褐色細胞腫治療候補薬の医師主導治験を進めるとともに、前立腺がん治療候補薬の非臨床試験の開始に向け着実に準備を進めた。ガリウムを用いた前立腺がん診断薬についても医師主導治験を着実に進めており、放射線医学の発展に寄与している。

(4) 関係機関との連携・協力に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ IAEAや国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構等、国内外の研究機関と連携関係を継続しており、広島大学や長崎大学等との共同研究課題も59件実施した。
- ② ○ 「2024年『県民健康調査』国際シンポジウム」を東京・福島会場に加えオンラインにより実施し、国内外への情報発信を強化した。

3 管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ 男女共同参画やワーク・ライフ・バランスに関するセミナー等を開催したほか、出産や育児、介護等のライフイベントを抱えた研究者への研究支援員の配置、産休等を取得する女性医師の代替確保等、女性が働きやすい環境を整備し、ワーク・ライフ・バランスを推進した。
- ② ○ 災害時に帰宅困難となる学生用の食料備蓄、防災訓練による学生の防災意識向上、非常用設備の定期点検等、災害に備える取組を継続している。
- ③ ○ 各診療科等副部長をメンバーとした「勤務環境の改善検討ワーキンググループ」を11回開催し、医師労働時間短縮計画の作成、勤務環境改善に関する協議検討を行っており、医師の働き方改革や医療従事者の負担軽減を図っている。

(2) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- 全職員の意識啓発を図るため、省エネルギーに関する取組や電気使用量の掲示による見える化を行い、光熱水費節減に努めた。

(3) 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ◎ 県内の高校生を対象に、広報誌「いごころ」の定期的な発行（年4回）や、出前講座等を実施し、将来、医療従事者として県内で活躍できる人材の育成に寄与する取組を行った。また、マスメディアへの情報提供や取材対応を積極的に行い、効率的かつ効果的な情報発信を推進した。

(4) その他業務運営に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ コンプライアンスに関する研修実施や各所属の取組状況の把握、マニュアル改訂、コンプライアンスだより発行等により、全職員の意識向上を図った。
- ② ○ 学内教職員に対する「倫理講習会」及び「研究コンプライアンス講習会」をe-learning形式で実施し、研究実施に当たり、遵守事項等を広く周知した。また、研究を実施する教職員に対し、e-APRIN（ラーニングプログラム）の受講を勧め、196名が新規登録した。
- ③ ○ 学生へのアンケート結果に基づき、学生の自習スペースや駐輪場不足への対応を行う等、ニーズに応じた環境の改善に取り組んだ。
- ④ ◎ 定期健康診断受診について積極的な勧奨を行い、予備日での受診や

委託先の健診実施機関での受診を可能とする等により、受診率 100%
を達成した。

公立大学法人福島県立医科大学の第3期中期目標期間（平成30年度～令和5年度）に係る業務の実績に関する評価結果

第1 「全体評価」

公立大学法人福島県立医科大学（以下「法人」という。）における第3期中期目標期間の業務実績について、法人による自己評価は次のとおりである。

全項目（170項目）中

「A：中期計画を上回って実施している」	14項目（8.2%）
「B：中期計画を予定どおりに実施している」	154項目（90.6%）
「C：中期計画を下回って実施している」	2項目（1.2%）
「D：中期計画を大幅に下回って実施している」	0項目（0%）

全体として、法人が、役員会、経営審議会、教育研究審議会等の法人内組織や教職員が相互に緊密な連携を図りながら、法人を挙げて中期目標の達成に向け、人材育成、研究、保健・医療の提供、地域貢献等に積極的に取り組み、県民の保健・医療・福祉の向上に貢献してきたことは、高く評価できる。

また、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興を進めるため、県民健康調査を始めとする県民の心と体の健康を守るための各種取組や新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、福島県の中核医療機関として尽力していることは、大いに評価できる。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響等による病床利用率や患者紹介率・逆紹介率の低下、臨床研究に費やす時間の確保等が課題となった。

財務状況については、期間当初の当期総損失決算から、役員・教職員が一丸となって経営改善に取り組み、平成31年度～令和4年度まで4期連続で当期総利益を計上し、目的積立金を計上するまで改善が図られたことは評価できる。令和5年度は、物価高騰下における厳しい経営環境により、経常損失が生じたが、入院患者数の増加や、平均在院日数短縮による効率的運営等により、病院収益を増加させたことは評価できる。

	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	見込 評価	実績 評価
教育研究等の質の向上	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
教育	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
研究	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
地域貢献	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
国際交流	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
大学附属病院	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
東日本大震災等の復興支援	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
県民の健康保持・増進	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
復興支援	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ

放射線医学の教育研究等	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
関係機関との連携・協力	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
管理運営の改善及び効率化	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
業務運営の改善、効率化	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
財務内容の改善	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
自己点検・評価等	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
その他業務運営	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ

1 福島県立医科大学

福島県立医科大学は、令和3年に保健科学部が開設したことにより、3学部6学科を有する医療系の総合大学となり、令和5年には別科助産学専攻が開設し、“ひとのいのち”を尊び倫理性豊かな医療人の教育・育成、学生への各種支援、県内医療確保のための医療機関への医師派遣や専門知識を活用した医療教育活動等の地域医療施策、海外大学との相互交流や海外研究支援による国際交流の深化、独創的で質の高い研究を推進するための環境整備に取り組んでおり、評価できる。

なお、平成29年度に受審した独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の認証評価において、機構が定める大学評価基準を満たしていると評価されているが、「学生が身に付けた学習成果について自己点検・評価し、教育の質の改善・向上を図るための体制」について指摘を受けており、すでに対応しているところではあるが、継続的改善が望まれる。

2 大学附属病院

特定機能病院である大学附属病院では、全人的・統合的な医療の提供等のため、法人化を機に医学部附属病院から大学附属病院となり、病院機能評価の認定や都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、救命救急センターやドクターヘリ、臨床腫瘍センター、性差医療センター、リハビリテーションセンターの運営、一般病棟における7対1看護の実施、臨床研修の充実、医療の高度化や質の高い医療の提供を支える人材育成、双葉地域の医療体制への支援等、高度・先進医療、患者の安全管理と患者サービスの向上、地域医療との連携等に取り組むとともに、病院長を中心としたガバナンス体制の下で医療安全の確保に取り組んでいる。

また、新病棟（みらい棟）において、救急医療、災害・被ばく医療、子ども・女性の医療の充実を図っているほか、東北地方では初の導入となった先端的なハイブリッド手術室やMRI手術室において最新医療を提供し、本県の医療水準の向上に努めるとともに、病院長を中心に医業収益の確保に努めており、評価できる。

3 会津医療センター

大学の附属施設として教育研究の一端を担うため、大学と連携した医学部及び看護学部の学生の臨床実習を行う等、人間性豊かな優れた医療人の育成に努めている。また、高度で先進的な医療を推進し、地域医療拠点として会津地域の医療向上に資するため、病院機能評価の認定、病院機能の充実、地域の医療機関との連携強化、地域医療支援等に取り組むとともに、病院長を中心に医業収益の確保に努めており、評価できる。

4 東日本大震災等の復興支援

本県復興を担う高度な知識や技術等を備えた医療人を育成するための教育プログラムの実施、県民健康調査や市町村等との連携による被災者の心のケアの推進、医療関連産業の復興関連プロジェクト支援に向けた研究や、放射線医学の教育研究を推進している。また、本県医療分野の復興拠点である「ふくしま国際医療科学センター」において、復興を医療面と健康面から支える取組を進めていることに加え、令和5年4月に福島国際研究教育機構(F-REI)と連携協力に関する基本合意書を締結し、「放射線科学・創薬医療」、「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信」等の分野において、連携・協力を積極的に進めており、評価できる。

第2 「項目別評価」

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

(1) 教育に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

[特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 大学入試制度改革に対応した入学者選抜方法を検討し、医学部においては、後期日程の廃止、推薦A枠の出願資格の変更、総合型選抜を導入し、看護学部においては、社会人選抜の廃止等、入試制度の改善を行った。また、医学部において、海外教育プログラム選抜を導入し、多様かつ優秀な学生の確保に取り組んだ。
- ② ○ 基礎医学の学力向上のため、授業内容やカリキュラムの見直しを実施するとともに、各種国家試験対策として、出題数が多い講義必修化、進級試験出題範囲の見直しや設問のブラッシュアップ、自習スペースの確保、受験対策情報の積極的な提供等を行い、医師国家試験及び保健師国家試験の合格率については、目標値を達成した。看護師国家試験については、目標値に達しなかったが、全国値は上回っており、継続的な取組による向上

を期待する。

国家試験合格率	H30	R元	R2	R3	R4	R5
医師(新卒) 目標 95%	<u>91.6%</u>	96.8%	<u>93.5%</u>	<u>93.8%</u>	100%	97.7%
保健師 目標 95%	<u>82.3%</u>	97.5%	98.8%	<u>94.0%</u>	97.6%	97.6%
看護師 目標 100%	<u>98.7%</u>	<u>98.8%</u>	<u>98.8%</u>	<u>98.8%</u>	<u>97.6%</u>	<u>96.3%</u>

- ③ △ CBT（臨床実習開始前の医学部生に必要とされる知識を問う客観試験）及びOSCE（臨床実習開始前の医学部生に必要とされる技能と態度を客観的に評価する実技試験）について、模試結果を教員間で共有したり、スキル・ラボラトリー（診療技能を修得するための施設）を開放したりと、合格率アップのための対策強化を図った。令和5年度より両試験は公的化されたこともあり、合格率の維持向上に向けたより一層の取組を期待する。

合格率	H30	R元	R2	R3	R4	R5
CBT (目標)	<u>92.3%</u> (98.0%以上)	98.4% (98.0%以上)	<u>97.6%</u> (98.0%以上)	<u>96.2%</u> (98.0%以上)	100% (99.0%以上)	<u>96.4%</u> (99.0%以上)
OSCE (目標)	<u>81.4%</u> (90.0%以上)	<u>76.6%</u> (90.0%以上)	<u>89.5%</u> (90.0%以上)	<u>80.6%</u> (90.0%以上)	100% (98.0%以上)	99.3% (98.0%以上)

※ H30～R3 は本試験における合格率、R4・R5 は最終合格率を記載

- ④ ○ 大学院課程において、医学研究科では学位授与基準を公表し、学位論文を順次公表している。また、毎年2名の共同大学院生を選定の上、海外の大学に派遣し、国際性及び先進的で高い専門性のある人材育成を図っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大や国際情勢の変化により、海外派遣が困難な状況となっている。看護学研究科では、領域の拡充や新規科目の開講等カリキュラムの見直しを行って充実を図り、修士課程の教育・研究機能を強化した。
- ⑤ ◎ 会津医療センターでは、より実践的な臨床実習実施のため、各種委員会で随時議論・見直しを行い、医学部学生及び看護学部学生の臨地実習の充実を図った。
- ⑥ ○ 教員の教育力の向上、授業の改善を図るため、FD（教員能力開発）活動への計画的な参加を促しており、参加率は目標値（75%以上）を達成した。参加者が少ない年度もあったため、教員全員がFDに参加できるよう、引き続き開催情報の提供や参加を促す取組を継続して実施している。
- ⑦ ◎ 学生生活の支援体制を充実させるため、医学部では、担任によ

るホームルームや実務者ミーティングを通して、個々の学生の問題の抽出・把握に努めるとともに、看護学部においては、学生生活アドバイザー制度を継続し、学生の相談等に素早く対応できる体制の整備を図った。

また、就職情報コーナーを設置し、各医療機関からの求人情報等の随時提供、附属病院情報の重点的な周知等を行ったことにより、看護学部の就職希望者の就職率は、100%を維持している。効果的な取組等により、新設された保健科学部についても、学生が希望する進路につくことができるような支援を期待する。

- ⑧ ◎ 文部科学省からの設置認可を受け、保健科学部を令和3年4月に開設し、教育実習機器の計画的な調達等、教育環境整備に努め、設置計画に即した専門医療技術者の育成を開始した。引き続き、地域医療を支える医療人材の育成に期待する。
- ⑨ ◎ 大学院看護学研究科助産師コース及び別科助産学専攻の開設に向け準備を進め、計画どおり令和5年4月から開設した。別科助産学専攻の学生の令和5年度助産師国家試験合格率は100%を達成した。

(2) 研究に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。

[特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 学内の「戦略的学内研究推進事業」において、毎年度新規課題を募集・採択し、研究助成を行うことで、実用化につながる研究の支援強化や講座等間が連携した研究に取り組んでいる。

	H30	R元	R2	R3	R4	R5
新規採択課題件数	4件	1件	1件	1件	1件	2件

- ② ○ 学内研究者に対して競争的資金の公募情報を速やかに周知し、事務局での申請書事前チェックや効果的な資料作成支援等を行った結果、採択件数について、厚生労働省科学研究費補助金は目標を上回ったが、その他は目標を下回った。採択件数増加に向けた継続的な取組や検討を期待する。

採択件数	H30	R元	R2	R3	R4	R5
文部科学省科学研究費助成事業 目標：(H30～R3)年間280件以上 (R4～R5)年間380件以上	278 件	344 件	358 件	376 件	379 件	371 件
厚生労働省科学研究費補助金 目標年間20件以上	21 件	26 件	23 件	25 件	24 件	26 件
AMED事業 目標年間50件以上	43 件	38 件	38 件	32 件	29 件	30 件

- ③ ○ 研究の国際化を推進するため、英文校正に精通した非常勤職員雇用や民間会社への英文校正委託等、質の高い英語論文の作成支援環境の充実に取り組んだ結果、英語論文数は増加してきた。新型コロナウイルス感染症流行下においては、論文の土台となる研究等に費やす時間の確保が困難だったこともあり、令和4年度以降は減少しており、今後の増加を期待する。

論文数	H30	R元	R2	R3	R4	R5
目標： (H30～R3)年間 555 件以上 (R4～R5)年間 1,000 件以上	923 編	860 編	1,064 編	1,054 編	821 編	837 編

- ④ ○ 正規職員として看護師や薬剤師、常勤の教授を配置するとともに、臨床研究センターの部門を教育・相談、実施支援、事務の3部門に再編し、臨床研究の計画段階から実施までを効率的にサポートできるようスタッフを配置する等、増員や組織再編等を通じて実施体制の強化を図った。
- ⑤ ○ 創出された知的財産の適切な管理に努めるとともに、大学教職員が所有する知的財産権を活用して起業した企業に対し、「福島県立医科大学発ベンチャー」の称号を授与する等、知的財産の積極的な運用に取り組んだ。

(3) 地域貢献に関する目標を達成するための措置

【評価】「1：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ◎ 地元新聞社と連携し、県民向けの公開講座や出前講義、動画配信を実施したほか、教授による新たな健康啓発コラム連載を開始する等、マスコミとの連携の強化を図りながら情報発信力を高めることにより、地域住民の健康増進を支援する活動を積極的に実施し、地域住民の保健・医療に関する知識の向上に貢献した。
- ② ◎ 保健医療交流事業として、大学と市町村が共催する講演会に講師を派遣し、県民への健康づくりに関する正しい知識の普及に貢献した。

	H30	R元	R2	R3	R4	R5
派遣件数	3市6町 1村	1市6町 1村	4町1村	3町1村	1市3町 2村	2市6町 2村

- ③ ◎ 各種教育機関からの依頼に対し、講義等を行った。新型コロナウイルス感染症流行下においても、オンラインによる遠隔講義を

行う等、工夫して実施し、県民への保健・医療教育活動に貢献した。

	H30	R元	R2	R3	R4	R5
実施件数	441件	576件	424件	326件	337件	306件

- ④ ○ 会津医療センターにおける、産学官連携による共同研究促進のための外部資金新規受入件数は、多くの年度で目標を上回っており、医療関連産業の創出・振興に寄与している。

受入件数	H30	R元	R2	R3	R4	R5
目標 50 件以上	90 件	94 件				
目標新規 40 件以上		(51 件)	50 件	48 件	54 件	26 件

- ⑤ ◎ 県内医療機関からの非常勤医師派遣依頼に対する対応率・対応件数は、ともに毎年度目標値を達成しており、地域医療に大いに貢献している。

対応率・対応件数	H30	R元	R2	R3	R4	R5
目標対応率 84% 以上	84%	86%	84%	88%	87%	86%
目標対応件数 1,000 件以上	1,153 件	1,227 件	1,246 件	1,335 件	1,379 件	1,479 件

- ⑥ ◎ 県と連携・協力しながら講習会、病院見学会等を定期的を開催し、地域医療を支える人材育成や県内定着の促進に取り組んだ。
また、県の補助事業や委託事業を活用しながら県外から医師を招へいし、県内医療機関への医師派遣を行うことで、県が行う医療従事者確保の事業に積極的に取り組んだ。

(4) 国際交流に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。

[特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ 国際学術交流協定を締結した海外協定校からの留学生受入、学生の留学派遣及び共同研究の実施等を支援した。新型コロナウイルス感染症の影響により令和2～4年度は中止したが、オンラインを活用した救急医学実習、医療面接実習、研修会や学生間の交流等、工夫しながら交流を進めることにより、国際社会で活躍できる人づくりに取り組んだ。令和5年度は受入・派遣を再開した。
- ② ○ 研修医の短期海外研修を実施し、国際的視野を持った人材育成に努めた。新型コロナウイルス感染症の影響により令和2～4年度は見送りとなったが、令和5年度に再開した。

(5) 大学附属病院に関する目標を達成するための措置

【評価】「↑：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

[特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 関係医療機関等と連携・協力の下、臨床研究環境の改善や医療人としての資質等向上を目的としたレジデントスキルアップセミナーを開催した。令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しているが、オンラインによる地域医療症例検討会や臨床研修病院ネットワークガイダンスを開催する等、臨床研修医の資質等向上や確保に取り組んだ。
- ② ◎ 毎年度、特定の看護分野において優れた知識と技術を持つ、専門看護師及び認定看護師の資格取得者を生み出した。専門化を考慮した水準の高い人材育成が着実に進んでいることから、県民への質の高い医療提供の向上が期待される。

育成数	H30	R元	R2	R3	R4	R5
専門看護師及び認定看護師 目標：中期目標期間終了時までに12名以上	2名	2名	4名	1名	3名	3名
特定行為看護師 目標：年2名以上	2名	2名	2名	3名	7名	6名

- ③ ○ メディカルスタッフ資質向上に向けた教育研修の充実を図り、第一種放射線取扱主任者、医学物理士、医療安全管理者等、有資格者の育成に計画的に取り組んだ。
- ④ ◎ ドクターヘリ運航調整委員会や症例検討会を開催し、消防要請時の判断基準の再確認、運用上の課題や対応についての検討を行うとともに、広域連携を結んでいる隣県を含む関係機関と情報共有する等により、ドクターヘリの効果的な運用に取り組んだ。
- ⑤ ◎ 抗菌薬適正使用のさらなる推進に向け、AST（抗菌薬適正使用支援チーム）による支援体制の強化を図り、血液培養提出件数が平均90%以上の高水準を維持した。
- ⑥ ○ 多職種で構成する患者サービス向上委員会において、院内の複数の窓口寄せられた患者意見を集約し課題を整理した。また、採血の予約枠を設けることによる外来待ち時間の短縮や、病床管理担当と病棟看護師長が連携し入院待ち患者の緩和・解消に取り組む等の改善をし、患者サービスを向上させることができた。
- ⑦ △ 新型コロナウイルス感染症の影響により、患者紹介率及び逆紹介率は目標値を下回った。事前診察予約の迅速処理や返書続報の徹底、連携登録医制度や病院訪問による患者紹介・逆紹介の推進、

多職種共同による転院支援等を行い、紹介率・逆紹介率とも上昇傾向にあり、PCR検査のみの患者を除いての換算では目標を達成した。

	H30	R元	R2	R3	R4	R5
患者紹介率 目標 90%以上	91.6%	91.1%	<u>89.5%</u>	<u>79.0%</u>	<u>75.0%</u> (95.7%)	<u>88.5%</u> (92.7%)
患者逆紹介率 目標 80%以上	<u>69.3%</u>	<u>73.0%</u>	<u>78.2%</u>	<u>67.9%</u>	<u>64.8%</u> (82.7%)	<u>77.6%</u> (81.3%)

※ R4・R5の()はPCR検査のみの患者を分母から除いた場合の数値

- ⑧ △ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、一般病棟の病床利用率、平均在院日数ともに目標値を下回った。各診療科への通知や目標を下回る診療科への個別ヒアリングを実施する等、改善に向け努めており、引き続き病院全体での取組を期待する。

	H30	R元	R2	R3	R4	R5
病床利用率(一般病棟) 中期目標終了時に87%以上	<u>84.2%</u>	<u>84.3%</u>	<u>75.2%</u>	<u>78.6%</u>	<u>77.1%</u>	<u>78.0%</u>
平均在院日数(一般病棟) 中期目標終了時に13日以下	<u>13.3日</u>	<u>13.3日</u>	12.9日	<u>13.4日</u>	<u>13.4日</u>	12.5日

- ⑨ ○ 医業未収金について、未収金発生防止及び未収金管理・回収マニュアルに基づき未納患者への督促を実施した。早期の電話催促や、過年度未納者に対する文書による再督促等に取り組んでおり、今後の回収率上昇が期待される。
- ⑩ ◎ 医薬品及び診療材料の購入経費抑制に当たり、他医療機関のベンチマークデータを活用しながら定期的に価格交渉を行うとともに、医薬品については薬事委員会を開催し、後発医薬品への切替えを促進した結果、中期目標期間終了時の使用割合は93.6% (目標値:常時85%以上) となっている。
- ⑪ ○ 会津医療センターにおいて、臨床研修医及び鍼灸研修医の確保のため、関係医療機関等と協力・連携し、合同説明会への参加やセンター独自のオンライン説明会の開催等、研修プログラムの周知に努めた結果、初期研修医充足率93%、専門研修プログラム採用率50%、鍼灸研修生採用率100%となった。臨床研修医及び鍼灸研修生の確保・育成の継続的な取組が期待される。
- ⑫ ◎ 会津医療センターにおいて、事務局と各診療科の連携により積極的な患者の受入れを行った結果、手術技術の難しさや所要時間等から区分される、手術難易度AからEのうち、手術難易度が高いD以上の割合は、毎年度の目標値(70%以上)を上回る実績を

残しており、高度で先進的な医療の提供を推進した。

- ⑬ ◎ 会津医療センターにおいては、院長を始め、患者支援センターを中心に、会津管内の病院・診療所等へ訪問し、連携の強化活動や会津医療センターを紹介先としてPRした結果、紹介率は毎年度目標値を上回っており、逆紹介率も逆紹介先が決まらない患者へ積極的に提案したこと等により、概ね目標値を上回っている。

	H30	R元	R2	R3	R4	R5
患者紹介率 目標：(H30～R3) 65%以上 (R4～R5) 70%以上	73.2 %	75.0 %	76.1 %	74.8 %	<u>66.5</u> %	83.4 %
患者逆紹介率 目標 50%以上	50.4 %	52.1 %	<u>48.1</u> %	55.0 %	<u>47.3</u> %	71.9 %

- ⑭ ○ 会津医療センターの病床利用率は目標を下回ったが、一般病床の平均在院日数は目標を達成した。病床利用のさらなる効率化に向け、ベッドコントロールセンター設置の検討会WGによる検討を始めており、今後の改善が期待される。

	H30	R元	R2	R3	R4	R5
病床利用率（一般病棟） 目標：(H30～R3) 中期目標 終了時まで 85%以上 (R4～R5) 85%以上	86.6 %	87.1 %	<u>67.8</u> %	<u>69.6</u> %	<u>73.2</u> %	<u>77.3</u> %
平均在院日数（一般病棟） 目標：(H30～R3) 中期目標 終了時まで 13日以下 (R4～R5) 13日以下	12.4 日	12.0 日	12.3 日	12.5 日	11.3 日	11.4 日

- ⑮ ◎ DMAT隊員の育成に力を入れており、新型コロナウイルス感染症流行下や地震・台風等の災害時に複数のチームを派遣した。令和5年度は、能登半島地震の被災地へ、延べ24名の隊員を派遣し、支援を行った。

2 東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

(1) 県民の健康の保持・増進に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

[特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ 放射線医学県民健康管理センターにおいて、県民健康調査を推進するとともに、情報管理等の専門家から助言を受けながら県民健康調査データ管理システムの円滑な運用を図ったほか、調査データを学術研究等に有効活用し、調査結果から得られた科学的な知見の発信に取り組んだ。
- ② ◎ 県民健康調査について、基本調査の回答率向上に向け、甲状腺検査会場において問診票の書き方支援を行った。また、甲状腺検査における県内外の検査実施機関の拡充、インターネットによる受診申込み等、受診者の利便性確保に取り組んだ。こころの健康度・生活習慣に関する調査について、回答内容から支援が必要な方へ電話支援または文書支援を実施するとともに、健康に不安を抱える方からの電話相談に応じる等、こころのケアにつながる取組を推進した。

(2) 復興支援に関する目標を達成するための措置

【評価】「1：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ 福島災害医療セミナーを開催し、災害医療、被ばく医療に関する教育プログラムの実施を通じて災害医療に関する幅広い視野を持つ人材育成に取り組むことができた。
- ② ◎ 福島医薬品関連産業支援拠点化事業における企業等との契約数は目標を大きく上回り、また、中期計画変更後においても「ベンチャー企業、関連団体等における雇用者総数」は目標 54 名に対し令和 5 年度実績で 76 名と目標を大きく上回っている。衛生材料等についても IgA 抗体マスク、IgA 抗体配合スプレー等、計 3 例の製品化実績があり、さらに、浜通りサテライトを開所し、ベンチャー企業等が入居する等、着実に成果を上げている。

【中期計画変更前】

	H30	R 元	R2	R3	中期目標期間 終了時合計
研究成果物提供契約数 目標：中期目標期間中に 40 件	14 件	33 件	28 件	59 件	327 件
受託研究契約数 目標：中期目標期間中に 15 件	21 件	26 件	42 件	27 件	218 件

【中期計画変更後】

	R4	R5
ベンチャー等雇用者総数 目標：中期目標期間中に 54 名	70 名	76 名
衛生材料等の製品化実績件数 目標：中期目標期間中に 3 例以上	3 例	0 例

- ③ ○ 新型コロナウイルス感染症の影響により医師派遣の調整が難しい中、ふたば医療センター附属病院へ医師を計画どおり派遣し、病院の運営を支援するとともに、多目的ヘリの運航を継続し、双葉地方の二次救急医療の確保等、地域に必要な医療の提供に貢献した。また、生活習慣病の予防についての広報誌発行や住民向け健康講座の開催を支援する等、双葉地域の復興に医療面から貢献した。

(3) 放射線医学の教育研究等に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ 先端臨床研究センターにおいて、PET/MRI等を活用した早期診断について、受診勧奨や委託検査実施等の各種取組を進め、検査の実施件数を大きく増加させた。また、アスタチンを用いた悪性褐色細胞腫治療候補薬の医師主導治験を進めるとともに、前立腺がん治療候補薬の非臨床試験の開始に向け、着実に準備を進めた。ガリウムを用いた前立腺がん診断薬についても、医師主導治験を着実に進めており、総じて放射線医学の発展に寄与した。
- ② ◎ 放射線医学県民健康管理センター主催の国際シンポジウムにおいて、「県民健康調査」による研究成果、甲状腺検査やこころの健康等の最新情報を国内外に向けて発信した。
- ③ ○ 「災害・被ばく医療科学共同専攻」の共同大学院である長崎大学と、福島開講の「福島医大救急医学実習」「災害こころの医学」や、長崎開講の「被ばく影響学」の講義を行い、災害医療や被ばく医療に携わる多様な人材育成に連携・協力して取り組んだ。

(4) 関係機関との連携・協力に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ◎ IAEAや国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構等、国内外の研究機関と連携関係を継続している。また、広島大学や長崎大学等との共同研究課題を実施している。

3 管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。

【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ 男女共同参画やワーク・ライフバランスに関するセミナー等を開催したほか、出産や育児、介護等のライフイベントに合わせた研究者への研究支援員の配置や、産休等を取得する女性医師の代替確保等、女性が働きやすい環境を整備し、ワーク・ライフバランスを推進した。
- ② ○ 「職員研修計画」に基づき、意識改革・能力開発・資格取得支援を3つの柱とする研修を実施した。
- ③ ○ 各診療科等副部長をメンバーとした「勤務環境の改善検討ワーキンググループ」を設置・開催し、医師の働き方改革や医療従事者の負担軽減を図っている。
- ④ ○ 会津医療センターにおいて、令和6年度からの医師の時間外労働上限規制に向け、当センター検討会を中心に、医師へのヒアリングや医療機関への労基署の宿日直許可取得の働きかけ等に取り組み、医師の時間外労働時間数の縮減を図った。

(2) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。

【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ 外部の競争的資金公募情報の学内電子掲示板への速やかな掲載・周知や、科学研究費等の競争的資金の申請書に係る事務局での提出前の事前チェック等、採択件数・金額の増加に取り組んだ。
- ② ○ 光熱水費を中心とした経費節減を図るため、使用状況データを随時確認し、当該データに基づく学内放送の実施や注意喚起文書の配布により、全職員に対し経費節減意識の啓発を行った。また、電力会社と交渉し、電気料金の縮減を図った。

(3) 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。

【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ 医学教育分野別評価に係る改善に向けたロードマップを作成して改善状況等の進捗を確認し、教育統括会議で改善検討を行っていくことで計画どおり改善を行ってきた。また、法人内組織である評価室において自己評価の点検・再評価を行い、適切な業務実績報告書を作成するとともに、評価結果を学内において共有した。
- ② ◎ 学内ホームページや学内向け広報誌、SNS等の各種媒体を活用して、研究等の取組や成果を情報発信した。県内の高校生を対象として発行している広報誌「いごころ」では、身近な健康問題の特集テーマとして取り上げる等、健康啓発に努め、保健・医療教育活動に貢献した。

(4) その他業務運営に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。

〔特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△〕

- ① ○ 法令の遵守に係るコンプライアンス講習会、科学研究費に係る説明会を開催し、学内教職員に対してコンプライアンスの徹底を推進した。また、倫理講習会を開催し、研究を実施する教職員に対し各種指針等の規定等、研究実施にあたっての遵守事項等を周知した。
- ② ○ 年次計画に基づく施設改修において、ユニバーサルデザインに配慮した施設の改修を図った。また、学生アンケート等により状況の把握に努め、学生の自習スペースや駐輪場不足への対応を行う等、ニーズに応じた学習環境の整備・改善に努めた。
- ③ ○ 専任の精神科医師と臨床心理士、看護師等が連携しながら、メンタル相談体制を充実させた。また、全職員を対象としたメンタルヘルス研修会を開催し、健康管理活動を強化した。
- ④ ◎ 定期健康診断の積極的な受診勧奨を行い、予備日での受診や委託先の健診実施機関での受診を可能とする等により、受診率100%を達成した。

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学進学法成人自己の状況												項目別評価	評価委員会における特記事項	評価	
	公計	画	選	成	人	自	己	状	評	況	備	価				
第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	中期	A	11	B	104	C	2	D	0							
	年度	A	18	B	137	C	4	D	0							
	中期	A	11	B	104	C	2	D	0							
	年度	A	18	B	137	C	4	D	0							
1 教育に関する目標を達成するための措置	中期	A	1	B	43	C	0	D	0							
	年度	A	4	B	55	C	0	D	0							
	中期	A	1	B	43	C	0	D	0							
	年度	A	4	B	55	C	0	D	0							
(1) 入学者受入方針及び入試制度に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	7	C	0	D	0							
	年度	A	0	B	7	C	0	D	0							
	中期	A	0	B	7	C	0	D	0							
	年度	A	0	B	7	C	0	D	0							
		<p>アドミッション・ポリシーをホームページ及び大学案内に掲載するとともに、進学説明会や大学見学、オープンキャンパス等で広く周知した。</p> <p>また、各学部ごとに入試区分ごとの入学後の成績や卒業後の進路等の分析を行い、医学部においては、後期日程の廃止、推薦A枠の出願資格の変更、総合型選抜及び海外教育プログラム選抜の導入、看護学部においては、社会人選抜の廃止など、入試制度の改善を行ってきた他、全学部面接の評価方法等の検討を行い、医学部においては、総合型選抜において、学力以外の能力を多面的・総合的に評価するため、出願書類やMMI(複数)の課題を用いた面接試験の評価方法等について検討した。</p> <p>保健科学部については、アドミッション・ポリシーについては、アドミッション・ポリシーについて、説明会等で周知した。</p>														
		A	0	B	7	C	0	D	0							
		<p>アドミッション・ポリシーをホームページ、大学案内に掲載するとともに、進学説明会や大学見学、オープンキャンパス等で求める学生像の周知を図った。</p> <p>各学部において、入試区分ごとに入学者についての入学後の成績等について分析等を行い、入学者選抜の改善の検討を進めており、医学部においては、地域枠に係る募集人員の見直しを実施した。</p>														
		年度														
			<p>・学生の成績や進路等の分析を行い、入試制度の改善を行ったことは評価できる。新設された保健科学部の状況も注視しながら、引き続き、求める学生像に合った学生確保に係る取組を期待する。</p>												II	
			<p>・オープンキャンパスや進学説明会を開催し、目的意識を持った学生の確保に取り組んだことは評価できる。</p> <p>・各学部の入試区分ごとに、入学後の学生の成績等について分析等を行い、入学者選抜の改善に繋がっていることは評価できる。</p>												II	

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大 学 法 人 自 己 評 況	学 法 人 自 己 評 況					項目別評価	評価委員会における特記事項	評価
		A	B	C	D	0			
(2) 教育の内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	中期 年度	A	B	C	D	0	<p>・基礎医学の学力向上のため、授業内容やカリキュラムの見直しを行ったことは評価できる。</p> <p>・CBT（臨床実習開始前の医学部生に必要とされる知識を問う客観試験）及びOSCE（臨床実習開始前の医学部生に必要とされる技能と態度を客観的に評価する実技試験）について、診療技能修得のための施設を開放するなどして、合格率アップのための対策強化を図ったことは評価できる。</p> <p>・上記取組を行ったが、結果として、CBTの合格率が目標値に達していない年度が多かったことから、改善に向けた取組の継続及び検討を期待する。</p>	II	
	中期	A	B	C	D	0			
(2) 教育の内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	中期 年度	A	B	C	D	0	<p>・医師国家試験（新卒者）において、合格率の目標値を達成したことは大いに評価できる。</p> <p>・新カリキュラムにより、看護学部の教育理念に定める能力を有する看護専門職の育成を行ったことには評価できる。</p> <p>・試験結果をGPA方式で評価し学部生に配布するなど、成績評価法の透明性、公平性の確保を図ったことは評価できる。</p>	II	
	中期	A	B	C	D	0			

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大 学 法 人 自 己 評 況	評 価 委 員 会 評 価										
		項目別 評価	評価における特記事項									
(3) 教育の実施体制等 に関する目標を達成 するための措置	中期 年度	A	0	B	3	C	0	D	0			<p>試験の評価すり合わせを含め、大学全体で組織的に教育を行っていることは評価できる。</p> <p>・学生に対する授業評価結果をホームページに掲載する等、授業改善に向け、透明性のある取組を行っていることは評価できる。</p>
	中期	A	0	B	3	C	0	D	0			
(4) 学生への支援に関 する目標を達成す るための措置	中期 年度	A	0	B	5	C	0	D	0			<p>・看護部指導者と看護学部教員が教育について情報共有する場を設ける等、教育の充実に取り組んだことは評価できる。</p> <p>・授業評価アンケートを授業改善に繋げていることは評価できる。</p>
	中期	A	0	B	5	C	0	D	0			
(3) 教育の実施体制等 に関する目標を達成 するための措置	中期 年度	A	0	B	3	C	0	D	0			<p>・看護部指導者と看護学部教員が教育について情報共有する場を設ける等、教育の充実に取り組んだことは評価できる。</p> <p>・授業評価アンケートを授業改善に繋げていることは評価できる。</p>
	中期	A	0	B	3	C	0	D	0			
(4) 学生への支援に関 する目標を達成す るための措置	中期 年度	A	0	B	5	C	0	D	0			<p>・コロナ禍における学生の状況把握や支援方法を工夫して実施したことは評価できる。</p> <p>・学生の支援体制を充実させるため、実務者ミーティング等、定期的な取組を行っていることは評価できる。引き続き、学生が相談しやすい環境づくりに努め、効果的な支援を行うことを期待する。</p>
	中期	A	0	B	5	C	0	D	0			
(3) 教育の実施体制等 に関する目標を達成 するための措置	中期 年度	A	0	B	3	C	0	D	0			<p>・看護部指導者と看護学部教員が教育について情報共有する場を設ける等、教育の充実に取り組んだことは評価できる。</p> <p>・授業評価アンケートを授業改善に繋げていることは評価できる。</p>
	中期	A	0	B	3	C	0	D	0			
(4) 学生への支援に関 する目標を達成す るための措置	中期 年度	A	0	B	5	C	0	D	0			<p>・看護部指導者と看護学部教員が教育について情報共有する場を設ける等、教育の充実に取り組んだことは評価できる。</p> <p>・授業評価アンケートを授業改善に繋げていることは評価できる。</p>
	中期	A	0	B	5	C	0	D	0			

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大 学 法 成 人 自 己 評 価										項目別 評価	評価委員会 における特記事項
	公 計	画	選	法	成	人	自	己	評	価		
(5) 保健科学部に関する 目標を達成するため の措置	中期 年度	A A A	0 0 0	B B B	2 5 2	C C C	0 0 0	D D D	0 0 0			<ul style="list-style-type: none"> 保健科学部を開設し、教育環境整備に努め、学部運営を計画通りに進めてきたことは評価できる。 市町村等と連携し、教育・研究活動を通して、地域貢献に積極的に取り組んでいることは評価できる。 大学院設置に向けた準備も含め、引き続き地域医療を支える医療人材育成の取組に期待する。
	中期	計画どおり令和2年3月に文部科学省に保健科学部の設置認可申請書を提出するとともに、令和2年8月には審査意見に対応した補正申請書を提出し、令和2年10月に設置認可を受けられた。 大学院保健科学系研究科設置準備委員会を設置し、申請に必要な事項の検討を行い、令和6年3月13日付けで文部科学省大学院設置室に申請書類を提出し受理された。										
	年度	A	0	B	5	C	0	D	0	大学院保健科学系研究科設置準備委員会を設置、令和5年度に計11回の委員会を開催し申請に必要な事項の検討を行い、令和5年12月の役員会に上程、令和6年3月13日付けで文部科学省大学院設置室に申請書類を提出し受理された。 今後は、令和5年5～6月に申請内容が審査され、8月末には審査結果が通知される見込みである。		
	中期 年度	A A A	0 0 0	B B B	1 1 1	C C C	0 0 0	D D D	0 0 0			
(6) 助産師育成のための 新課程設置に関する 目標を達成するため の措置	中期	大学院看護学研究科助産師コース及び別科助産学専攻の開設に向け準備を進め、計画どおり令和5年4月から開設した。 開設後は設置計画に即した教育を着実に実施している。										
	年度	A	0	B	1	C	0	D	0	令和5年4月に別科助産学専攻及び大学院看護学研究科助産師コースを開設し、助産師としての専門知識と実践能力が修得できる教育を実践した。 別科助産学専攻の学生の令和5年度助産師国家試験合格率は100%を達成した。		
	中期 年度	A A A	0 0 0	B B B	1 1 1	C C C	0 0 0	D D D	0 0 0			<ul style="list-style-type: none"> 大学院看護学研究科助産師コース及び別科助産学専攻を計画通りに開設し、設置計画に即した教育により、国家試験合格率100%を達成したことは評価できる。
	中期 年度	A A A	0 0 0	B B B	1 1 1	C C C	0 0 0	D D D	0 0 0			<ul style="list-style-type: none"> 助産師養成のための専門的実践教育を実践し、開設当初から、助産師国家試験合格率100%を達成したことは評価できる。

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学学運法成人の自己状況											項目別評価	評価委員会における特記事項					
	中期 年度	A	1	B	9	C	1	D	0	中期 年度	A			0	B	11	C	0
2 研究に関する目標を達成するための措置	中期 年度	A	1	B	9	C	1	D	0	中期 年度	A	0	B	11	C	0	D	0
	中期 年度	A	1	B	9	C	1	D	0	中期 年度	A	0	B	11	C	0	D	0
(1) 研究水準及び研究成果等に関する目標を達成するための措置	中期 年度	A	1	B	6	C	1	D	0	中期 年度	A	0	B	8	C	0	D	0
	中期 年度	A	1	B	6	C	1	D	0	中期 年度	A	0	B	6	C	1	D	0
(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	中期 年度	A	0	B	3	C	0	D	0	中期 年度	A	0	B	3	C	0	D	0
	中期 年度	A	0	B	3	C	0	D	0	中期 年度	A	0	B	3	C	0	D	0

・戦略的学内研究推進事業において、毎年度研究助成を行うことで、実用化に繋がる研究の支援強化や講座等間が連携した研究の推進に取り組んでいることは評価できる。
 ・競争的資金公募情報の速やかな周知や、事務局における申請書事前チェック等、効果的な支援を行う、助成事業の採択件数が概ね目標を達成していることは評価できる。コロナウイルス感染症等の影響により目標を下回った英語論文数について、今後の推進を期待する。

・将来的に外部資金の獲得に繋がる、実用化を目指す研究への支援を決定したことは評価できる。
 ・研究の国際化を推進するため、英文校正に精通した非常勤職員の雇用や民間会社への英文校正委託など高品質の高い支援体制が作られていることは評価できる。

・臨床研究及び治験の実施体制の構築を進めてきたことは評価できる。体制強化による効果を把握し、更なる推進に繋げていくことを期待する。

・研究実施支援体制の強化を図ったことは評価できる。

学内研究助成事業である戦略的学内研究推進事業について、新規採択課題10件(平成30年度4件、令和元年度1件、令和2年度2件、令和3年度1件、令和4年度1件、令和5年度2件)、継続採択課題7件(平成30年度2件、令和元年度1件、令和2年度1件、令和3年度1件、令和4年度1件)に対して研究助成を行うことで、実用化につながる研究の支援強化や講座等間が連携した研究の推進に取り組んだ。
 年度ごとに科研費等の採択件数等に係る前年度比較と要因分析を行った。
 特に、科研費については、若手研究者の採択率が伸び悩む傾向にあることから、若手研究者を対象とする支援を継続的に実施した。

学内研究助成事業である戦略的学内研究推進事業について、令和5年度新規採択課題に係る学内審査を行い、将来的に企業との連携による外部資金、大型研究資金等の獲得につながる実用化を目指した研究を支援する実用化分野において1件、基礎系、臨床系の講座等間の連携による研究を支援する一般分野において、1件の助成を決定した。
 また、令和4年度採択課題1件について、中間評価を経て、令和5年度における研究継続及び助成を決定した。
 (科研費(新規・代表分))
 令和5年度分 申請件数:430件、採択件数:91件、令和4年度分 申請件数:410件、採択件数:95件
 (厚生科研費(新規・代表分))
 令和5年度分 申請件数:1件、採択件数:1件、令和4年度分 申請件数:0件、採択件数:0件
 (AMED(新規・代表分))
 令和5年度分 申請件数:13件、採択件数:0件、令和4年度分 申請件数:4件、採択件数:2件
 (医師主導治験)
 令和5年度 12件、令和4年度 11件

平成30年度には正副職員の見直し、薬剤師を、令和元年度には臨床研究センターの副センター長として常勤の教授を配置するなどして体制を構築してきた。

特定臨床研究の開始に向けて、臨床研究センターが研究計画策定の段階の支援を行った。
 また、実施支援業務を担当する事務職員を新たに6月に採用し、スタッフの充実を図った。

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学学術法		人自		己評		項目別評価	評価委員会における特記事項	評価
	計画	達成	成果	の	状況	状況			
3 地域貢献に関する目標を達成するための措置	中期 年度	A 1 B 13 C 0 D 0	B 17 C 1 D 0	C 1 0	D 0				
	中期 年度	A 1 B 13 C 0 D 0	B 17 C 1 D 0	C 1 0	D 0				
	中期 年度	A 3 B 17 C 1 D 0	B 17 C 1 D 0	C 1 0	D 0				
	中期 年度	A 1 B 8 C 1 D 0	B 8 C 1 D 0	C 1 0	D 0				
(1) 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置	中期 年度	A 2 B 10 C 1 D 0	B 10 C 1 D 0	C 1 0	D 0				
	中期 年度	A 2 B 10 C 1 D 0	B 10 C 1 D 0	C 1 0	D 0				
		保健医療交流事業として、希望する市町村と本学が共催する形で、住民を対象とした講演会を継続的に実施した。(平成30年度:3市6町1村、令和元年度:1市6町1村、令和2年度:4町1村、令和3年度:3町1村、令和4年度:1市3町2村、令和5年度:2市6町2村) また、新型コロナウイルス感染症の影響により、教育活動の依頼が減った時期もあったが、Zoomなどで遠隔講義を行うなど活動方法を工夫し実施した。 福島民友新聞社や福島民報社と連携しながら公開講座を開催するとともに、後日採録記事として公開することで、健康啓発情報を公開講座参加者のみならず、広く新聞読者に発信した。新型コロナウイルス感染症拡大以降は、紙上開催や動画を活用した方法で情報発信を継続することができた。							
		県民を対象とした公開講座として、アオウゼ県立医大公開講座12回、民報出前講義22回、JA県民健康セミナー3回、健康喚起イベントとして福島民報社、福島県共催「あしたの食卓」12回、会津中央病院健康フェスタ1回、福島民友新聞社、福島県共催企画「目指せ健康日本」11回を実施。事後の動画のアーカイブ配信や採録紙面により情報発信力を高める取り組み推進。5件の新聞紙面連載を継続。県民に対する健康喚起に努め、健康増進に貢献する取り組みを推進。 具体的には、福島民報社(1日1動、こどもと女性の健康講座、医心伝心)、福島民友新聞社(保健科学のトピク、坪倉先生の放射線教室)、なかでも、1日1動は、1回あたりの再生回数17000回を超える好評を得た。 福島県保健福祉部健康づくり推進課との連携事業である学生ががん予防サポーター養成事業は、福島学院大学7月24日、郡山女子大学7月26日にそれぞれ乳がんをテーマに、今泉専修学校は10月19日に子宮頸がんをテーマに出前講義を対面で実施。 福島学院大学では11月15日に大腸がんをテーマに実施。桜の聖母高校で1月18日に乳がんをテーマに実施した。							

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学選送法成人自己の状況										項目別評価	評価委員会における特記事項	評価
	公計	中期	年度	A	0	B	5	C	0	D			
(2) 地域医療等の支援に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	5	C	0	D	0	0	<p>医療機関からの非常勤医師派遣依頼に対する対応数・対応率とともに、中期目標期間の全ての年度で目標値を達成しており、特に対応件数は年々増加し、地域医療の確保に継続的に貢献していることは評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県と連携・協力しながら、講習会、病院見学会等を定期的に開催したほか、県の委託事業などに積極的に取り組む等、地域医療支援を継続していることは評価できる。 	I	
	年度	A	0	B	7	C	0	D	0	0			
4 国際交流に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	5	C	0	D	0	0	<p>県内医療機関からの非常勤医師派遣依頼に対する目標値である、対応件数1,000件以上、対応率84%以上を毎年達成することができた。地域医療支援教員等の配置にあたっては、県内各医療機関からの医師派遣要望依頼の状況に応じて適切に配置するように努め、地域医療の確保に貢献した。</p>	I	
	年度	A	0	B	7	C	0	D	0	0			
4 国際交流に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	6	C	1	D	0	0	<p>令和元年度までは、海外協定校と学生派遣・留学生受入、共同研究の実施等を推進していたが、新型コロナウイルス感染症拡大後は、派遣・受入を中止していた。令和5年度からの交流再開を目指し、現地に教員を派遣して安全性を確認したうえで交流を再開した。</p>	II	<p>・海外協定校との学生派遣・受入、共同研究の実施等により国際社会で活躍できる人づくりに取り組みしており、コロナ禍においても、オンライン活用等の工夫により国際交流を継続したことは評価できる。</p>
	年度	A	0	B	7	C	1	D	0	0			
4 国際交流に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	7	C	1	D	0	0	<p>令和5年度から、海外協定校との学生派遣・学生受入を再開した。マウントサナイナイ医科大学とは2名を派遣し、2名を受け入れた。シンガポール国立大学とは2名を派遣し、1名を受け入れた。オハイオ州立大学には6名を派遣した。</p>	II	<p>・新型コロナウイルスの影響により中止していた海外協定校との学生派遣・受入を再開し、国際交流を深めたことは評価できる。</p>
	年度	A	0	B	7	C	1	D	0	0			

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大 学 法 人 自 己 評 価 状 況	学 法 人 自 己 評 価 状 況		項目別 評価	評価委員会における待記事項						
		学 法 人 自 己 評 価 状 況	学 法 人 自 己 評 価 状 況								
5 大学附属病院に関する目標を達成するための措置	中期 年度	A	8	B	33	C	0	D	0	I	
	中期 年度	A	11	B	47	C	2	D	0		
(1) 附属病院に関する目標を達成するための措置	中期 年度	A	8	B	33	C	0	D	0	I	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年度、特定の看護分野において優れた知識と技術を持つ認定看護師や専門看護師を計画的に要請しており、専門化を考慮した水準の高い人材育成が着実に進んでいることは評価できる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となつているレジデントスキルアップセッションについて、再開に向けた検討を期待する。
	中期 年度	A	11	B	47	C	2	D	0		
	中期 年度	A	2	B	28	C	0	D	0		
	中期 年度	A	3	B	41	C	0	D	0		
	中期 年度	A	2	B	28	C	0	D	0	I	<ul style="list-style-type: none"> ・認定看護師等、専門性の高い人材の育成が着実に進められており、評価できる。また、認定看護師育成の取組も評価できる。 ・情報セキュリティについて、職員個人の意識を高めること、病院全体の対応訓練とを実施していることは評価できる。引き続き、最新情報把握に努め、安定的な運営を行うことを期待する。
	中期 年度	A	3	B	41	C	0	D	0		
	中期 年度	A	3	B	41	C	0	D	0	I	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に認定看護師教育課程を受講し修了した皮膚排泄ケア分野、認知症看護分野、がん化学療法看護分野の各1名が認定看護師の資格を取得した。令和5年度認定看護師教育課程の受講者は、新生児集中ケア分野、小児プライマリケア分野、認定看護師教育課程の各1名である。 ・次期総合医療情報システムについては、会津医療センターと情報共有を行いながら令和6年4月稼働に向けてプロジェクト管理を行い、安定稼働に向けて院内外の調整を実施した。 ・病院職員向けセキュリティ研修を6月27日に実施し、医療法施行規則第14条第2項の新設項目及び医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに追加されたサイバーセキュリティ関連の項目について説明を行った。また、学術情報センターを中心に、情報漏えいインシデント事例と対策についてe-learningによる情報セキュリティ研修を9～12月に実施した。 ・危機管理対策として、今年度実施予定の障害発生時の対応訓練に向けて、部内訓練シミュレーションを9月19日、26日に実施した。さらに、障害対応訓練に向けたシナリオを作成し、1月25日にサイバー攻撃によるシステム停止を想定した障害対応訓練を実施の上、業務フローの改善やシステムの不具合に係る解決策の検討を行った。
	中期 年度	A	3	B	41	C	0	D	0		

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学法成人自己評価状況										項目別評価	評価委員会における特記事項	評価
	中期 年度	A	6	B	5	C	0	D	0	0			
(2) 会津医療センターに 関する目標を達成す るための措置	中期 年度	A	6	B	5	C	0	D	0	0	<p>・臨床研修医及び鍼灸研修生の確保や育成に積極的 的に取り組んだことは評価できる。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により一時低下 した紹介率・逆紹介率が回復し、中期目標期間 の最終年度には、開院以来、最高となったことは 大いに評価できる。引き続き、地域の医療機関と の連携強化を期待する。</p>	I	
	中期	<p>オンラインも活用した積極的な合同説明会への出席や個別説明会の開催により臨床研修医及び鍼灸研修生の確保に取り組んだ。また、会津地域を始めとする県内外の協力病院と連携しながら、その育成に継続的に取り組むことができた。</p> <p>病院機能評価を令和2年3月に受審し、令和2年6月に更新認定された。受審後は、年2回自己評価を行うことにより、令和6年度の更新に備えている。</p> <p>紹介率については、新型コロナウイルス感染症の蔓延により発熱外来を設置したこと、令和4年度は初診料算定患者数が急増し目標値(70%以上)を下回ったが、発熱外来の患者を除くと77.9%となり目標値を上回っている。令和5年度は83.4%となり、中期目標期間において最も高い数値となった。</p> <p>逆紹介率については、令和2年度は近隣の医療機関の受け入れ制限等の影響により目標値(50%以上)を下回った。また、令和4年度も目標値を下回ったが、発熱外来の患者を除くと58.1%で目標値を上回っている。令和5年度は71.9%となり、中期目標期間において最も高い数値となった。</p>											
	年度	A	8	B	6	C	2	D	0	0	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により低下し ていた紹介率・逆紹介率が回復し、開院以来、最 高となったことは大いに評価できる。患者に対し て丁寧な説明を行っていることも評価できる。</p>	I	
	年度	<p>3月末時点の手術難易度D以上の割合は72.2%(1540件/1994件)で目標を達成した。</p> <p>令和5年度の紹介率は83.4%と目標を大きく上回り、開院(平成25年度)以来、最も高い数値となった。ま 令和5年度の逆紹介率は71.9%と目標を大きく上回り、開院(平成25年度)以来、最も高い数値となった。ま た、逆紹介先が決まらない患者に対して、患者支援センターから積極的に逆紹介先の提案を行い、逆紹介に 難色を示す患者に対しては、面談をして根気よく説得にあたった。</p>											

2 項目別評価 総括表

評価項目	公計	学 法 人 自 己 評 況										項目別評価	評価委員会における特記事項	評価	
		立	画	大	学	法	人	自	己	評	況				
3	放射線医学の教育研究等に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	5	C	0	D	0	0	0	先端臨床研究センターにおける研究について計画通りに進捗し、先端研究を推進していること。評価できる。 ・国内外との教育機関との連携により、災害医療や被ばく医療に携わる多様な人材の育成を行ったことは評価できる。	I	
		年度	A	0	B	6	C	0	D	0	0	0			
3	放射線医学の教育研究等に関する目標を達成するための措置	中期	先端研究については、複製のプロジェクトを進めてきており、特にアスタチンを用いたがん治療薬(211At-MABG)及びビカリウムを用いたがん診断薬(68Ga-PSMA-11)については、医師主導治験を実施するなど、概ね計画どおり進捗している。 放射線災害・医学研究拠点事業による共同研究課題を実施した(平成30年度:51件、令和元年度:50件、令和2年度:53件、令和3年度:55件、令和4年度:61件、令和5年度:59件)。										I		
		年度	A	0	B	6	C	0	D	0	0	0			
4	関係機関との連携・協力に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	4	C	0	D	0	0	0	先端臨床研究センターの研究資源の効率的な運用により、研究開発を着実に進めていること。評価できる。 I	I	
		年度	A	0	B	6	C	0	D	0	0	0			
第3	管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	中期	A	1	B	31	C	0	D	0	0	0	国内外の研究機関や民間企業等と連携を図りながら、共同研究・受託研究により放射性薬剤開発を推進していることは評価できる。 I	I	
		年度	A	2	B	37	C	0	D	0	0	0			
第3	管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	中期	IAEAや国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構等国内外の研究機関と連携を推進してきた。 民間企業や研究機関等とPET機器やサイクロトロン、非臨床試験施設を活用した共同研究・受託研究の契約を締結し、放射性薬剤開発に関する研究を進めた。 IAEAや国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構(QST)を始めとする国内外の研究機関等と連携関係を継続したほか、本学F-REI連携推進本部を中心に福島国際研究教育機構(F-REI)との連携を図った。										II		
		年度	A	1	B	31	C	0	D	0	0	0			
1	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	中期	A	2	B	31	C	0	D	0	0	0	国内外の研究機関と連携を継続しているほか、F-REIとの連携を図りながら研究開発を進めていることは評価できる。	II	
		年度	A	2	B	37	C	0	D	0	0	0			
1	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	中期	おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。 おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。										II		
		年度	A	0	B	11	C	0	D	0	0	0			
1	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	中期	おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。 おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。										II		
		年度	A	0	B	12	C	0	D	0	0	0			

2 項目別評価 総括表

評価項目	公 計	立 画 大 学 法 人 自 己 評 価										項目別 評価	評価委員会 評価の特記事項	評価								
		中期 年度	A	0	B	9	C	0	D	0	中期				年度	A	0	B	10	C	0	D
(1) 組織運営の改善に 関する目標を達成す るための措置	中期	A	0	B	9	C	0	D	0	<p>男女共同参画やワーク・ライフ・バランスに関するセミナーを概ね計画どおり実施した。 研究支援員は、希望者に対してはほぼ配置できている状況である。 産休等医師の代替採用枠の配分:8名 育児任期付職員:19名 新型コロナウイルス感染症の影響により当初の職員研修計画から変更が生じる部分もあったが、実施方法や開催時 期の調整などにより、概ね計画とおりの研修が実施できている。</p>										II	・社会のニーズに応じた組織運営の改善に努めていることは評価できる。	
	年度	A	0	B	10	C	0	D	0													
(2) 業務の効率化・合理 化に関する目標を達 成するための措置	中期	A	0	B	10	C	0	D	0	<p>男女共同参画のみならずダイバーシティやワーク・ライフ・バランスに関するセミナー等を開催したほか、ライ フイベント中の研究者への研究支援員の配置、産休等取得する女性医師の代替確保、育児任期付職員の 配置などにより、女性が働きやすい環境を整備している。 男女共同参画等に関するセミナー:上半期実績 5回、下半期実績 9回 研究支援員の配置:上半期実績 延べ20名、下半期実績 延べ22名 産休等医師の代替確保:要望なし 育児任期付職員:5名</p>										II	・男女共同参画を始め、ダイバーシティやワー ク・ライフ・バランスの推進、女性が働きやすい 環境整備等に取り組んだことは評価できる。	
	年度	A	0	B	2	C	0	D	0													
2. 財務内容の改善に 関する目標を達成す るための措置	中期	A	0	B	2	C	0	D	0	<p>(会津医療センター) 超勤申請・承認、集計の効率化・ケアレスミス防止のため、就業管理システム対象拡大を給与係へ協議し、令 和5年10月から栄養管理部を対象とした。 出勤簿・年休等管理簿の整理・運用方法を見直し、各所属において一次チェックを徹底する形に改め、セン ター全体の適正な勤怠管理・給与支給の確保に努めた。 令和6年度からの医師の時間外労働上限規制に向け、当センター検討会を中心に、医師へのピアリングや医 療機関への労基署の宿日直許可取得の働きかけ等に取り組み、医師の時間外労働時間数の削減(所属医師 全員のA水準目標の達成)を図った。 また、試行として1月から新超勤様式を運用することにより、医療協力先での勤務実態の把握を可能とした。</p>										II	・引き続き、組織全体での働き方改革、業務効率 化・合理化の推進を期待する。	
	年度	A	0	B	3	C	0	D	0													
2. 財務内容の改善に 関する目標を達成す るための措置	中期	A	0	B	3	C	0	D	0	<p>おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。</p>										II	・医師の働き方改革に向け検討を重ね、適正な勤 怠管理・給与支給の確保に努めたことには評価でき る。	
	年度	A	0	B	3	C	0	D	0													
2. 財務内容の改善に 関する目標を達成す るための措置	中期	A	0	B	3	C	0	D	0	<p>おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。</p>										II		
	年度	A	0	B	3	C	0	D	0													

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学		学達		法成		人自		己評		状況	項目別評価	評価委員会における特記事項
	計画	年度	中期	年度	中期	年度	中期	年度	中期	年度			
(1)	外部研究資金等の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	2	C	0	D	0		II	・必要な情報の速やかな周知や、事務局による申請書作成支援をしたことは評価できる。効果的な取組が自己収入の増加に繋がることが期待する。
		年度	A	0	B	2	C	0	D	0			
(2)	経費の抑制に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	2	C	0	D	0		II	・必要な情報の速やかな周知や、事務局による申請書作成支援をしたことは評価できる。
		年度	A	0	B	1	C	0	D	0			
3	自己点検・評価及び情報発信に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	1	C	0	D	0		II	・省エネ対策のため、推進委員会を開催するとともに、学内への啓蒙活動を行い、組織的に取り組んだことは評価できる。
		年度	A	1	B	4	C	0	D	0			
(1)	評価の充実に関する目標を達成するための措置	中期	A	2	B	6	C	0	D	0		II	・電気使用量の見える化により、職員の意識啓発を図ったことは評価できる。
		年度	A	1	B	4	C	0	D	0			
		中期	A	2	B	6	C	0	D	0		II	
		年度	A	2	B	4	C	0	D	0			
		中期	A	0	B	2	C	0	D	0		II	
		年度	A	0	B	4	C	0	D	0			
(1)	評価の充実に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	2	C	0	D	0		I	・評価室を中心に、適切な実績報告書の作成に努めていることは評価できる。評価結果を活用し、業務の質の向上が図られることを期待する。
		年度	A	0	B	4	C	0	D	0			
年度		A	0	B	4	C	0	D	0		II	・令和4年度業務実績評価結果の法人内での取り扱いについて評価できる。	

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大 学 法 成 人 自 己 評 況	項目別評価									
		A	1	B	2	C	0	D	0	0	0
(2) 情報発信の推進に 関する目標を達成す るための措置	中期	A	1	B	2	C	0	D	0	0	I ・各種媒体を活用し、精力的な情報発信を行っていることは評価できる。引き続き、効果的かつ効果的な情報発信を期待する。 ・マスメディアへの情報提供や取材対応を積極的に行い、情報発信を推進していることは評価できる。
	年度	A	2	B	2	C	0	D	0	0	
4 その他業務運営に 関する重要目標を達 成するための措置	中期	A	1	B	2	C	0	D	0	II ・コンプライアンスの推進に係る取組について評価できる。引き続き、全職員が法令遵守を徹底し、高い倫理観を持ち続けるための取組を期待する。	
	年度	A	0	B	13	C	0	D	0		
(1) 法令遵守に関する目 標を達成するための 措置	中期	A	0	B	3	C	0	D	0	II ・コンプライアンスの推進に係る取組について評価できる。引き続き、全職員が法令遵守を徹底し、高い倫理観を持ち続けるための取組を期待する。 ・コンプライアンスに関する研修実施や各所属の取組状況の把握、マニュアル改訂、コンプライアンスなどより発行等により、全職員の意識向上を図ったことは評価できる。	
	年度	A	0	B	3	C	0	D	0		
(2) 施設設備や情報通 信基盤の整備・活用 等に関する目標を達 成するための措置	中期	A	0	B	6	C	0	D	0	II ・ユニバーサルデザインに配慮した改修を実施したことは評価できる。引き続き、計画的な保守点検・更新によるより良い学習環境の整備を期待する。 ・設備の状況把握に努め、適宜更新を行ったことは評価できる。	
	年度	A	0	B	7	C	0	D	0		

2 項目別評価 総括表

評価項目	公 立 大 学 法 人 自 己 評 価 状 況	項目別評価	評価委員会における特記事項	価 値								
					計	中期 年度	A	0	B	4	C	0
(3) 健康管理・安全管理に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	4	C	0	D	0	0	0	<p>・専任の医師等によるメンタル相談体制の充実を図ったことは評価できる。</p> <p>・定期健康診断受診について積極的な勧奨や受診者への配慮を行った結果、受診率100%を達成したことは評価できる。</p>
	年度	A	0	B	6	C	0	D	0	0	0	
(3) 健康管理・安全管理に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	4	C	0	D	0	0	0	<p>定期健康診断を毎年6月末から7月初めにかけて実施し、未受診者に対しては積極的な受診勧奨を行い、予備日での受診や委託先の健診実施機関での受診を可能とすることで、受診率100%を達成した。</p> <p>専任の精神科医師、臨床心理士、看護師等が連携しながらメンタルヘルズ相談体制の充実を図った。</p> <p>作業環境測定の上半期分を9月に実施し、下半期分を2月に実施した。</p> <p>産業医による職場巡回を毎月1回実施し、必要に応じて改善指導を行うことで職場環境の改善を図った。</p> <p>全職員を対象としたメンタルヘルズに関する研修会は、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、オンラインにより実施した。</p> <p>大学健康管理センターだよりを随時発行し、情報発信を積極的に行った。</p>
	年度	A	0	B	6	C	0	D	0	0	0	
	年度	A	0	B	6	C	0	D	0	0	0	<p>定期健康診断を6月末から7月初めにかけて実施し、受診率100%となるよう、未受診者に積極的な受診勧奨を行い、予備日での受診や委託先の健診実施機関での受診を可能とすることで、受診率100%を達成した。</p> <p>専任の精神科医師、臨床心理士、看護師等が連携しながらメンタルヘルズ相談体制の充実を図った。</p> <p>作業環境測定の上半期分を9月に実施し、下半期分を2月に実施した。</p> <p>産業医による職場巡回を毎月1回実施した。</p> <p>メンタルヘルズに関する研修会を新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため配信により実施する予定であったが、業務多忙により実施することができなかった。</p> <p>大学健康管理センターだよりを随時発行し、分かりやすい情報発信を行った。新型コロナウイルス感染症の基本的な感染対策等を含め、分かりやすい情報発信を行った。</p>

公立大学法人会津大学の令和5年度業務の実績に関する評価結果（年度評価）

第1 「全体評価」

第3期中期目標期間の6年度目（最終年度）となる令和5年度の業務実績について、公立大学法人会津大学（以下「法人」という。）による自己評価は次のとおりである。

全項目（179項目）

「A：年度計画を上回って実施している」	54項目（30.2%）
「B：年度計画を予定どおりに実施している」	120項目（67.0%）
「C：年度計画を下回って実施している」	4項目（2.2%）
「D：年度計画を大幅に下回って実施している」	1項目（0.6%）

法人は、第3期中期目標の達成に向けて、教育、研究、国際化、地域貢献及び復興創生支援等に積極的に取り組み、成果を出している。特に、「東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興や地方創生に寄与するための取組」、「福島国際研究教育機構（以下「F-REI」という。）との連携を含む研究に係る取組」は高く評価できる。

1 会津大学

会津大学（以下「四大」という。）は、コンピュータ理工学の分野において国内外で活躍できる優秀な研究者及び技術者の育成はもとより、起業家精神を持つ人材の育成にも努めている。さらに、留学生の受入れや文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業等による国際化にも積極的に取り組んでいる。

また、福島ロボットテストフィールドを拠点に実施している浜通り地域におけるロボット産業への産学官連携、県立医科大学との連携による県民健康調査への協力、先端ICT技術に携わる人材育成事業、大学発ベンチャー企業の創出等、新たな産業の創出及び雇用の拡大のために積極的に取り組んでおり、本県の復興と地方創生に貢献していることについて高く評価できる。

さらに、F-REIと協力連携に関する基本合意書を締結するとともに、積極的な連携に取り組んでいる。

2 会津大学短期大学部

会津大学短期大学部（以下「短大」という。）では、産業、経営、デザイン、情報、環境、健康、栄養、食品、教育、保育、福祉等の専門分野の知識や技術を身に付け、地域貢献ができる職業人の育成に取り組んでいる。

また、優秀な学生の確保に向けた広報活動、産学官民との協働・連携、学生参画型実学・実践教育、派遣講座・公開講座、復興支援のための活動、学生へのきめ細やかな学修相談等に積極的に取り組んでおり、高く評価できる。

令和5年度の業務実績（項目別評価）は以下のとおりである。

	十分に実施	おおむね実施	下回って実施	大幅に下回る
教育研究等の質の向上	○			
教育	○			
研究	○			
国際化	○			
地域貢献・東日本大震災等の復興支援	○			
地域社会との連携・協力	○			
地域産業の振興	○			
復興支援	○			
管理運営の改善及び効率化		○		
業務運営の改善、効率化		○		
財務内容の改善		○		
自己点検・評価等		○		
その他業務運営		○		

第2 「項目別評価」

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

(1) 教育に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

(四大)

- ① ○ 優れた学生の確保に向け、試験会場を東京及び京都に設ける等に努めた結果、一般入試の志願倍率が4.5倍となり、目標の5.0倍をおおむね達成できた。
- ② ◎ 女子入学生増加に向けて、在学中の女子学生から協力を得ながら、女性を意識した広報活動に努めるとともに、女子学生向けの返還不要の奨励金を設ける等の取組の結果、入学者に対する女子学生の割合が15.1%となり、目標である12%を大幅に上回って達成した。
- ③ ○ 学部・修士一貫型プログラムの活用や教員による広報活動等の各種取組の結果、大学院博士前期課程の定員充足率は79.2%となり、目標である80%をおおむね達成した。
- ④ ○ 工学教育の質を保証するJABEE（一般社団法人日本技術者教育認定機構）から情報専門系学士課程CS（コンピュータ科学）分野の認定基準に適合しているとして、四大の「国際技術者育成プログラム」が認

定された。

- ⑤ ○ 学部3年次への進級要件の一つであるTOEIC®450点以上について、大学全体として英語力強化に取り組みむとともに、面談等の個別の対応を行った。
TOEIC®450点到達状況 1年生 71.6% (目標 60%)
2年生 91.9% (目標 100%)
- ⑥ ○ 成績不振の学生を出さないよう、早期把握・注意喚起に努め、担当職員による学生や保護者との面談を実施した。
- ⑦ ◎ 「ICTグローバルプログラム全英語コース（全授業を英語で履修）」の知名度が向上し、在籍人数が前年度比23%以上の増加となる131人（留学生63人、日本人学生58人、非正規学生10人）となり、目標である112人を達成した。
- ⑧ ○ 県内企業見学会や県内企業を始めたとした合同企業説明会を開催し、県内企業を周知した。
- ⑨ ○ 国際公募を通じ、優秀な女性教員2人を採用した結果、女性教員の割合が11.8%となり、目標である1.0%を達成した。

(短大)

- ① ◎ 優れた入学者の確保に向け、県内の高校訪問の増加に加え、県外の高校への訪問等を実施した結果、志願倍率が2.2倍となり、目標である2.0倍を達成した。
- ② ○ 学習成果を可視化するため、食物栄養学科ではカリキュラムツリー・マップ（教育目標と授業科目の関係や授業科目相互の関係を示す図表）を整備した。
- ③ ○ 資格取得に関連した演習科目を開講し、資格取得に努めた結果、取得希望者の取得率は下記の表のとおりとなり、目標をおおむね達成した。

産業情報 学科	二級建築士試験・木造建築士試験受験資格100% 色彩検定 2級100% 3級95% UC級100%
食物栄養 学科	栄養士免許100% フードスペシャリスト資格認定試験受験資格100% NR・サプリメントアドバイザー認定試験受験資格100%
幼児教 育・福祉 学科	幼稚園教諭二種免許100% 保育士資格100% 社会福祉士受験資格100%

- ④ ◎ 関連企業の情報提供等を通じ、免許資格関連職（栄養士、幼稚園教諭二種免許、保育士）への就職率は目標を達成した。
食物栄養学科 実績 100% (目標 100%)
幼児教育学科 実績 100% (目標 100%)
- ⑤ ◎ 教務厚生委員・ゼミ担当教員・学生相談員が、学生の相談に随時対応し、学生からの相談2,969件に対応した。
- ⑥ ○ 県内の求人情報を集約の上、学生に提供したり、学内で出張ハローワークを月2回の頻度で実施したりする等、学生の就職支援に積極的に取

り組んだ。

- ⑦ ○ 学生寮（一箕寮）の生活環境改善のため、入寮生の意見や現状を確認し、ガス給湯器の交換、浴室・脱衣所の清掃、オーブンレンジの購入等を行った。また、空き部屋を感染症対策の隔離部屋として活用する等、感染拡大防止に努めた。

(共通)

- ① ○ 合同企業説明会や企業見学会の実施、キャリア教育、進路希望の把握、就職支援員による学生との個別面談、就職支援ツールの試験的導入等、きめ細やかな支援に努めたことにより、高い就職率を維持した。
- | | | | |
|---------|----|-------|----------|
| 四大（大学院） | 実績 | 100% | （目標100%） |
| 四大（学部） | 実績 | 98.6% | （目標100%） |
| 短大 | 実績 | 99.2% | （目標100%） |
- ② ◎ 学生支援として、授業料等の減免を実施したほか、メンタルヘルス支援や会津大学学生生活支援寄附金を活用したプリペイドカードの配布等を行った。

(2) 研究に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ 四大では、新たに3か国・地域の大学（インドのインド工科大学カンプール校、コロンビアのイセシ大学、チュニジアのカルタゴ大学）と一般協定を結ぶとともに、京都工芸繊維大学等と共同研究を実施した。
- ② ◎ 四大では、国際的な研究発表等に努め、下記の実績を残した。また、知的財産の活用にも力を入れており、知的財産顧問を設置し、大学に帰属する知的財産の維持・管理を行った。
- | | | | |
|------------|----|--------|------------|
| 主要学術論文採択数 | 実績 | 363件 | （目標 300件） |
| 学術論文被引用件数 | 実績 | 7,455件 | （目標3,000件） |
| 科学研究費新規採択率 | 実績 | 25.6% | （目標 30%） |
| 特許出願件数 | 実績 | 15件 | （目標 12件） |
- ③ △ 短大では、地域実践研究等を通じて研究成果を地域社会へ還元したが、新型コロナウイルス感染症により研究活動が長期間制限されてきた影響もあり、学会発表件数がコロナ禍前より大幅に減少し、公表された研究活動数が60件となり、目標である100件を達成できなかった。
- ④ ◎ 産学官連携を積極的に推進し、外部資金獲得に努め、下記のとおり目標を大幅に上回った。
- | | | | |
|------------|----|-------|------------|
| 公募型研究費獲得件数 | 実績 | 167件 | （目標 120件） |
| 外部資金獲得額 | 実績 | 4.6億円 | （目標 2.5億円） |
- ⑤ ○ 皇族も御臨席した天文学に関する国際会議について、日本学術会議等と共同して、福島県郡山市での開催に尽力した。
- ⑥ ◎ F-REIと協力連携に関する基本合意書を締結するとともに、ロボット開発環境と人材育成に向けた受託研究事業を開始した。

(3) 国際化に関する目標を達成するための措置

【評価】「I」：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 海外の大学等との交流協定について、米国、中国、インド、ヨーロッパ等の22の国・地域にある67校との協定を結んでおり、学生の海外研修、派遣等を実施した。交流協定に基づく具体的な取組として、共同研究の実施やデュアルディグリープログラム（会津大学と海外協定校の両方の修士課程で1年ずつ学び、修了時に2つの修士号を取得するプログラム）の推進、研究者及び学生の交流等を積極的に実施した。
- ② ○ 国際会議等に対する経費助成を3件実施した。
- ③ ◎ 196人の留学生を受入れ、外国人留学生の割合が14.3%となり、目標である10%を達成した。
- ④ ○ 日本学生支援機構や企業による経済支援活用等に努めたことで、日本人の留学・インターンシップ経験者が52名となり、目標の50人を達成した。
- ⑤ ◎ クラウドファンディングを活用し、留学生等が、浜通りにおける東日本大震災の復興活動を学ぶプログラムを実施した。

2 地域貢献・東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「I」：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

(1) 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置

【評価】「I」：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ 教員派遣講座や学生企画を含む公開講座を下記のとおり実施し、法人が持つ知的資源を地域社会へ還元した。

	公開講座	教員派遣講座
四大	18件	34件
短大	6件	174件

- ② ○ 四大では、県内の中学校・高校に教員を派遣し、延べ46校に出前講義を実施する等、英語や理数系科目の学力向上等に努めた。そのうち、会津学鳳高校との高大連携事業においては、スポット講義を4回実施した。
- ③ △ 「パソコン甲子園2023」を開催し、全国から1,502人の高校生等が参加した。中高生向けのプログラミング講座等を実施し、参加者の掘り起こしと参加者のスキルアップを図ったが、目標である参加者2,000人は達成できなかった。
- ④ ○ 高校生向けの「コンピュータサイエンスサマーキャンプ会津大学

2023」の開催を支援し、定員40人に対して72人の応募があった。参加者のモチベーションも高く、ICTに興味のある高校生の掘り起こしに貢献した。

- ⑤ ◎ 四大では、県立医科大学との共同研究を2件、民間企業等との医療・保健分野における共同研究等を8件実施するとともに、メディカルクリエイションふくしまにおいて、インテリジェント浴槽システム開発の技術展示を行った。
- ⑥ ◎ アカデミア・コンソーシアムふくしま（福島県内の高等教育機関等の連合体）が実施する大学発イノベーション・ベンチャー創出事業に応募し、2件が採択され、課題解決に向けた研究に取り組んだ。
- ⑦ ◎ 四大では、「スマートシティ会津若松」の推進に関する基本協定に基づき、複数プロジェクト（12分野）に取り組んだ。また、郡山市・白河市・いわき市・福島県等との連携に取り組み、県内自治体のDX化を支援した。
- ⑧ ◎ 県内の高校（3校延べ147人が参加）において、eスポーツの基礎となるロボットシミュレーターやプログラミングの基礎を学べる講座を実施し、IT人材の育成に貢献した。
- ⑨ ◎ 短大では、学生参画型実学・実践教育を33件実施し、短大教員が有する知見と学生が持つアイデアを、企業等に対して提供した。
- ⑩ ◎ 短大では、地方自治体や企業等からの委託事業を積極的に受け入れ、地域との連携・協働事業を48件実施し、目標である20件を達成した。

(2) 地域産業の振興に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ◎ 四大では、ICT活用やデジタル社会の進展に寄与することを目的に、会津IT秋フォーラムを開催した（現地参加者延べ100人、累計視聴数5；200回）。
- ② ◎ 県内中小企業等のDX化を支援するため、学生が県内中小企業5社を訪問して課題等を調査・分析し、それぞれに適した課題解決の提案を行った。
- ③ ◎ 技術相談や意見交換を行う「会津オープンイノベーション会議（通称AOI会議）」を335回開催し、6件の事業化につなげる等、産業振興と地域課題解決に貢献した。

(3) 復興支援に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ◎ 四大では、「会津大学ロボットテストフィールド研究センター」（南相馬市における福島ロボットテストフィールド内）を中心に、浜通りの高校生等へロボット・ICT教育を実施し、延べ535人が参加した。
- ② ○ 地元企業等との共同研究や、南相馬ロボット産業協議会の特別会員に

加入するとともに、ロボット開発研究会に参加して助言を行う等、被災地域の産業振興を推進した。

- ③ ◎ 四大では、「女性のためのITキャリアアップ塾」を開催し、定員を超える110人に対してプログラミング等の学習機会を提供し、57人の就労に貢献した。
- ④ ○ 四大では、福島県警察本部のサイバー犯罪対策アドバイザーとしてサイバー犯罪防止に努めるとともに、民間企業と連携してサイバー攻撃対策演習講座を開催し、人材育成にも取り組んだ。
- ⑤ ○ 短大では、大熊町との連携協定に基づき、義務教育学校「学び舎ゆめの森」へ講師派遣を2件実施した。
- ⑥ ○ 短大では、被災市町村及び帰還住民を対象とした復興支援に関する地域連携活動を3件実施した。

3 管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ 法人職員を2人採用し、法人職員割合が47.1%となり目標の45%を達成した。また、国際公募等により7人（うち3人が外国人、2人が女性）の教員を採用した。
- ② ○ 総務及び経理関連の事務手続きの電子申請を開始し、事務処理の効率化を図った。

(2) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

【令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① △ 産学イノベーションセンターの大規模改修工事に伴い、10月以降は貸出ししていない状況であったが、産学イノベーションセンター及び先端ICTラボの使用料収入は2,805万円となり、目標は達成できなかった。
- ② ○ 各種イベントに参加して技術展示・説明を行うとともに、技術移転機関（Technology Licensing Organization）との連携を継続し、知的財産の活用促進を図った。
- ③ ◎ 四大では、「会津大学生生活支援寄附金」を活用し、学食・売店で利用できるプリペイドカードを支給し、学生への経済的支援を実施した。また、過去6年間で最大となる奨学寄附金（20件、合計3,583万円）を受け入れ、学生支援及び教員の研究支援を実施した。
- ④ ○ 短大では、奨学金の活用方法を積極的に周知して広く寄附を募るとともに、12人の学生に奨学金を支給した。

(3) 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 「SLIMの月面着陸成功」等の優れた研究成果や、教員及び学生の表彰受賞、産学連携、公開講座等を大学ウェブサイトや各種媒体を通じて積極的に情報発信した。また、英語のページについても積極的に更新し、国内外へ広く情報を発信した。

(4) その他業務運営に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和5年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 人事評価を活用し定期的な面談（年5回）を実施したほか、職員面談を適時に行い、心身不調等の早期発見やその後のフォローに努めた。また、動画視聴形式によるメンタルヘルス研修を実施した。
- ② ◎ ネットワークシステムの更新を行い、通信レスポンスの改善を行った。また、教育・研究で利用しているネットワーク構成を見直し、ネットワーク利用の適正化等に取り組んだ。さらに、迷惑メール対策、セキュリティ対策を実施した。
- ③ △ 四大では、日数の拡大や看護師面談のオンライン化、事前予約システムの活用等による対策を講じたものの感染症の影響により、学生の健康診断受診率は82.4%となり、コロナ禍前の水準まで回復させることができなかった。なお、短大の学生健康診断受診率は100%となり、目標を達成した。

公立大学法人会津大学の第3期中期目標期間（平成30年度～令和5年度）に係る業務の実績に関する評価結果

第1 「全体評価」

公立大学法人会津大学（以下「法人」という。）における第3期中期目標期間の業務実績について、法人による自己評価は次のとおりである。

全項目（179項目）

- 「A：中期計画を上回って実施している」 58項目（32.4%）
- 「B：中期計画を予定どおりに実施している」 114項目（63.7%）
- 「C：中期計画を下回って実施している」 7項目（3.9%）
- 「D：中期計画を大幅に下回って実施している」 0項目（0%）

法人は、教育、研究、国際化、地域貢献及び復興創生支援等に積極的に取り組み、中期目標を上回る実績を上げることができた。

特に、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興に寄与するため、コンピュータ理工学、産業情報学、食物栄養学、幼児教育学及び社会福祉学の専門性を生かした人材育成や共同研究、産業・文化の振興等に取り組んでいることは高く評価できる。

第3期中期目標期間の業務実績（項目別評価）は、以下のとおりである。

	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	見込 評価	実績 評価
教育研究等の質の向上	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
教育	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ
研究	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
国際化	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
地域貢献・東日本大震災等の復興支援	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
地域社会との連携・協力	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
地域産業の振興	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
復興支援	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
管理運営の改善及び効率化	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
業務運営の改善、効率化	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
財務内容の改善	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
自己点検・評価等	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
その他業務運営	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ

1 会津大学

会津大学（以下「四大」という。）は、コンピュータ理工学の分野において国内外で活躍できる優秀な研究者及び技術者の育成に努めるとともに、起業家精神を持つ人材の育成にも力を注いでいる。さらに、留学生の受入れや文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業等による国際化にも積極的に取り組んでいる。

また、福島ロボットテストフィールドを拠点とした浜通り地域におけるロボット産業への産学官連携、県立医科大学との連携による県民健康調査への協力、先

端 ICT 技術に携わる人材育成事業、大学発ベンチャー企業の創出等、新たな産業の創出や雇用確保に積極的に取り組んでおり、本県の復興と地方創生に貢献していることについて高く評価できる。

さらに、福島国際研究教育機構と協力連携に関する基本合意書を締結するとともに、委託研究事業を開始する等、積極的な連携に取り組んでいる点は高く評価できる。

イギリスの教育専門誌 Times Higher Education による「THE 世界大学ランキング」にランクインし続けており、世界的にも評価を受けている。

パソコン甲子園、中高生向けのコンピュータサイエンスサマーキャンプ、公開講座、浜通り地域の高校生等向けのプログラミング演習、社会人向けのリカレント教育を実施し、ICT 人材育成の裾野を拡げる取組にも努めている。

なお、平成 29 年度に受審した公益財団法人大学基準協会の認証評価において指摘された「学部や大学院の課程ごとに入学受入方針（アドミッション・ポリシー）や、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が区別されていないこと」、「博士後期課程においてリサーチワークとコースワークを適切に組み合わせていないこと」、「博士前期課程において研究指導計画の学生への明示が不十分であること」については、すでに対応している。

2 会津大学短期大学部

会津大学短期大学部（以下「短大」という。）では、産業、経営、デザイン、情報、環境、健康、栄養、食品、教育、保育、福祉等の専門分野の知識や技術を身に付け、地域貢献ができる職業人の育成に取り組み、高い就職率を維持している。

また、優秀な学生の確保に向けた新たな入試制度の導入や積極的な広報、産学官民との協働・連携、学生参画型実学・実践教育、派遣講座・公開講座、復興支援のための活動、学生へのきめ細やかな学修相談等に積極的に取り組んでおり、高く評価できる。

特に、「学生の県内就労」及び「地域との協働・連携」については、教職員一丸となって力を入れており、非常に高く評価できる。

なお、平成 29 年度に受審した公益財団法人大学基準協会の認証評価において指摘された「学位授与方針について学科ごとに策定されていない点及び課程修了にあたって修得することが求められる知識・能力等の学習成果を示していない点」、「学生寮（一箕寮）の老朽化による入居学生の居住環境の悪化」、「附属図書館の狭隘」の課題はすでに対応している。

第 2 「項目別評価」

- 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

- (1) 教育に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

(四大)

- ① ◎ 学内全体で英語教育の充実に取り組み、英語による学部授業科目割合を増加させ、目標の50%を達成したことは高く評価できる。また、学部3年次への進級要件の一つに、TOEIC®400点以上(2022年度入学生からは450点以上)を設定するとともに、英語要件により留年した学生がほぼいなかった点も高く評価できる。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
英語による学部 授業科目割合 (目標50%)	29.9%	72.2%	66.7%	61.8%	62.5%	66.7%
2年次終了時 TOEIC®達成割合 (目標100%)	81.9%	94.8%	87.7%	84.7%	90.8%	91.9%

- ② ○ 成績不振の学生を出さないよう、全学生に担当教員を配置する制度を設けるとともに、単位数不足者に注意喚起を行った。また、平成30年度入学生から留年制度を導入し、成績不振学生の早期把握に努め、成績不振学生には、本人及び保護者との面接を行う等、きめ細かい支援を実施した。また、専門知識を有する修学支援員の雇用や、遠隔授業等の新型コロナウイルス感染症対策等、修学支援の充実を図っている点は評価できる。

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
留年新規判定人数	28人	26人	42人	24人	23人

- ③ ◎ 女子学生増加に向けて、学校推薦型選抜方法の見直し、女子学生向けの返還不要の奨励金の設置、在学中の女子学生からの協力も得た広報活動等に取り組んだ結果、入学者に対する女子学生の割合が15.1%となり、目標を上回って達成した。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
入学者に対する 女子学生の割合 (目標12%)	9.9%	9.5%	10.0%	10.2%	12.5%	15.1%

- ④ ○ 大学院進学率向上に向けた各種広報活動、オナーズプログラム(学部・修士一貫型)による5年間で修士号を取得できる制度運用等に取り組み、目標の大学院博士前期課程定員充足率80%をおおむね達成できた。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
大学院博士前期 課程定員充足率 (目標80%)	63.3%	67.5%	57.5%	65.8%	95.8%	79.2%

- ⑤ ◎ 工学教育の質を保証するJABEE(一般社団法人日本技術者教育認定機構)から情報専門系学士課程CS(コンピュータ科学)分野の認定基準に適合しているとして、四大の「国際技術者育成プログラム」が認

定された。

- ⑥ ○ 国際公募により教員を採用し、外国人等専任教員の割合が60.0%となり、目標の60.7%をおおむね達成した。また、女性教員採用に努め、女性教員割合が11.8%となり、目標の10%を達成した。

(短大)

- ① ○ 各学科において資格取得に向けた支援を行い、資格取得希望者の取得率について、目標の100%をおおむね達成した。

産業情報学科	二級建築士試験・木造建築士試験受験資格、色彩検定
食物栄養学科	栄養士免許、フードスペシャリスト資格認定試験受験資格、NR・サプリメントアドバイザー認定試験受験資格
幼児教育・福祉学科	幼稚園教諭二種免許、保育士資格、社会福祉士受験資格

- ② ◎ 免許資格関連職への就職を希望する学生の免許資格関連職への就職率について、目標の100%を達成することができた。
- ③ ○ 国の保育士養成課程の見直しに伴い、幼児教育・福祉学科の学科課程表や授業科目を見直し、県より指定保育士養成施設の変更承認を受けた。
- ④ ○ 教職員による学生相談、メンタルヘルス支援に努め、きめ細やかな学生支援を行っている。
- ⑤ ○ 学生寮（一箕寮）の生活環境改善に努め、厨房・食堂の改修工事、電気容量アップ工事、各室のLED照明更新等を実施した。また、ブロック塀からフェンスへの更新工事を実施した。

(共通)

- ① ○ オンラインでの広報活動等を通じて、コロナ禍においても大学が求める入学者の確保に努め、一般入試の志願倍率の目標をおおむね達成できた。特に、入試方法の変更や受験者へのアンケートを踏まえた広報活動の見直し等、優秀な学生確保に向けて積極的に取り組んだ。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
四大(目標5.0倍)	5.8倍	6.3倍	5.6倍	5.2倍	3.8倍	4.5倍
短大(目標2.0倍)	3.1倍	3.1倍	2.4倍	2.7倍	2.5倍	2.2倍

- ② ○ キャリア教育、学生との個別面談、就職支援員による就職活動支援等、きめ細やかな支援に努めたことにより、就職希望者の就職率について目標の100%をおおむね達成できた。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
四大(院)	100%	98.1%	97.4%	100%	100%	100%
四大(学部)	98.6%	98.1%	97.4%	99.2%	97.9%	98.6%
短大	97.8%	97.7%	98.5%	98.3%	98.3%	99.2%

- ③ ◎ 学生支援として、授業料減免制度の継続実施のほか、会津大学学生生活支援基金の活用による給付金支給に加え、学内で使用できるプリペイドカードの支給や、メンタルヘルス支援、コロナ禍における食料支援等

を行った。特に、令和元年4月から「会津大学学生生活支援基金」を設置し、寄附金の募集を開始した。これにより、修学が困難な学生に対する経済的支援を大学が積極的に行えるようにしたことは高く評価できる。

- ④ ○ ファカルティ・ディベロップメント（授業内容等を改善し向上させるための組織的取組）として、学生による評価アンケート、教員表彰（学生が選ぶベスト授業賞）、外部講師による講演会開催等を実施した。

(2) 研究に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

〔特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△〕

(四大)

- ① ◎ 四大では、研究力強化を図るため、講座制を廃止し、研究クラスター（研究テーマに応じて組織横断的なチームで研究を行う取組）による研究を推進した。
- ② ○ 6年間で、新たに12か国・地域の28の大学や研究機関と協定を締結し、共同研究等につながる取組を進めている。
- ③ ◎ 科学研究費の新規採択率について目標の30%を達成していない年度もあるが、主要学術論文採択数、学術論文被引用件数、特許出願件数は、目標を大きく上回る実績となった。特に、学術論文被引用件数は、6年間で80%以上増加した。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
主要学術論文採択数 (目標 300 件)	282 件	313 件	295 件	303 件	354 件	363 件
学術論文被引用件数 (目標 3,000 件)	4,046 件	4,743 件	4,881 件	5,872 件	7,070 件	7,455 件
科学研究費の新規採 択率 (目標 30%)	20.0%	26.7%	35.7%	20.0%	24.2%	25.6%
外部資金獲得件数 (目標 120 件)	116 件	135 件	157 件	141 件	172 件	167 件
特許出願件数 (目標 12 件)	8 件	15 件	16 件	10 件	12 件	15 件

- ④ ○ 平成31年に宇宙情報科学研究センターが文部科学省の「共同利用・共同研究拠点（月惑星探査アーカイブサイエンス拠点）」の認定を受け、全国の研究者と共同研究を実施している。
- ⑤ ◎ 福島国際研究教育機構と協力連携に関する基本合意書を締結するとともに、ロボット開発環境と人材育成に向けた受託研究事業を開始した。

(短大)

- ① ○ 産官民との連携、学生参画型実学・実践教育を通じた地域課題解決等により、研究成果を地域社会へ還元した。

- ② △ 公表された研究活動数は、新型コロナウイルス感染症による人的交流が制限された影響を除けば、目標の100件を達成している。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
公表された研究活動数(目標100件)	125件	107件	89件	73件	65件	60件

(共通)

- ① ◎ 外部資金獲得のため学内連携に努め、外部資金獲得件数及び外部資金獲得額について、目標を大きく上回って達成した。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
外部資金獲得件数(目標120件)	116件	135件	157件	141件	172件	167件
外部資金獲得額(目標2.5億円)	1億6664万円	3億6856万円	3億9602万円	3億4350万円	4億3863万円	4億6074万円

- (3) 国際化に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

[特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

(四大)

- ① ◎ 新型コロナウイルス感染症の影響もある中で、「デュアルディグリープログラム(会津大学と海外協定校の両方の修士課程で1年ずつ学び、修了時に2つの修士号を取得するプログラム)」、「グローバル3+2プログラム(海外の協定大学の学部を3年で履修したのち、会津大学の修士課程に進学し、2年間で修士号を取得するプログラム)」、「ICTグローバルプログラム全英語コース(全授業を英語で履修。以下「ICTGコース」という。)」等を通して、会津大学の認知度の向上及び優秀な外国人留学生の獲得に努めたことにより、外国人留学生の割合が14.3%となり、目標の10%を上回る実績となった。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
外国人留学生の割合(目標10%)	6.1%	7.9%	9.5%	12.4%	12.5%	14.3%
ICTGコース在籍人数	32人	41人	69人	76人	106人	131人

- ② ○ 新型コロナウイルス感染症の影響や円安・物価高騰の経済的影響もある中で、日本人学生の留学・インターンシップの拡充、留学生派遣支援体制の充実、外部資金を活用した経済的支援等に努め、日本人学生の留学経験者数について目標の50人を達成できた。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
日本人学生の留学経験者数(目標50人)	43人	22人	55人	61人	44人	52人

- ③ ◎ 文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業の認定を受け、大

学院を含めたグローバル創業教育を確立した。また、継続的な事業とするため、外部資金確保等の自走化にも取り組んだ。

- ④ ○ 新型コロナウイルス感染症による影響を受けつつも、地域自治体や会津大学外国人留学生後援会等と連携した交流イベントの開催、クラウドファンディング制度を導入した資金調達手段の確保、教員主催の国際会議等への経費助成等を通じ、学内及び地域の国際化に貢献した。

2 地域貢献・東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

(1) 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

[特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

(四大)

- ① ◎ 市町村や企業等との連携協定を新たに12件締結し、助言活動や人材育成、地域課題解決等を通じてDX化や地域活性化に寄与した。
- ② ◎ 県立医科大学や民間企業等との共同研究等に積極的に取り組んだ。
- ③ ○ 中高生向けの「コンピュータサイエンスサマーキャンプ会津大学」の開催を支援し、会津の魅力発信やICT人材育成に努めた。
- ④ △ 全国高等学校パソコンコンクール（パソコン甲子園）では、人材育成の長年の功績が評価され、日本工学教育協会の第23回工学教育賞における文部科学大臣賞を受賞した。コロナ禍において、オンラインで実施することにより、大会を継続開催したことは評価できるが、目標の参加者2,000人は達成できなかった。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
パソコン甲子園参加人数(目標2,000人)	1,906人	1,850人	1,555人	1,716人	1,505人	1,502人

(短大)

- ① ◎ 地域との連携・協働事業について、地方自治体等からの委託事業を積極的に受け入れ、目標の20件を達成した。特に、令和5年度は、目標に対して140%の増の48件となった。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
地域との連携・協働事業数(目標20件)	16件	21件	27件	27件	29件	48件

(共通)

- ① ◎ コロナ禍においてはオンライン開催に切り替える等により、公開講座及び教員派遣講座を継続的に開催し、法人が持つ知的資源を地域社会へ還元した。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
公開講座	16件	20件	14件	20件	19件	24件
教員派遣講座	219件	253件	165件	194件	215件	208件

(2) 地域産業の振興に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ◎ 県内外の企業等からの技術相談等を受ける「会津オープンイノベーション会議(AOI会議)」を実施し、共同研究や事業化等に発展させることで、産業振興に貢献した。また、会津若松市のスーパーシティ構想への支援を始め、市町村や民間企業等との連携が評価され、経済産業省の「地域オープンイノベーション拠点(地域貢献型)」に選ばれた。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
AOI会議開催件数(目標300回)	373回	340回	316回	311回	315回	335回

- ② ○ 大学発ベンチャー企業として12社を新たに認定し、総数31社となり、目標の総数30社を達成した。また、大学発ベンチャー企業への支援及び連携した研究活動も実施した。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
大学発ベンチャー認定企業数	3社	2社	2社	3社	2社	0社

(3) 復興支援に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：中期計画を十分に実施できている」と認められる。

【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

(四大)

- ① ◎ 「会津大学ロボットテストフィールド研究センター」(南相馬市の福島ロボットテストフィールド内)を中心として、ロボットや先端ICT技術の実証・開発、地元製造業との連携、浜通り地域の高校生等を対象としたロボット関連技術講習会を開催する等、産学官連携や人材育成を通じて、福島イノベーション・コースト構想の実現に向けて貢献した。
- ② ◎ 「女性のためのITキャリアアップ塾」を実施し、県内就職を希望する女性に対してプログラミング等を学習する機会を提供するとともに就労支援を行い、第3期中期目標期間中に累計400人以上の就労に貢献した。この取組は、日本工学教育協会の第25回工学教育賞を受賞した。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
就労者数	56人	108人	56人	68人	62人	57人

- ③ ◎ ロボット技術に係る研究成果や技術を県内企業に還元し、地域のイノベーションに貢献した。また、ロボットに関する各種取組は、大学間連携功労者表彰の受賞や World Robot Summit での入賞等、学外からも高い評価を受けている。
- ④ ◎ 福島県警察本部のサイバー犯罪対策アドバイザーとして助言を行う等、サイバー犯罪防止に協力した。また、コロナ禍において、県内中小企業支援のためにサイバーセキュリティ研修を実施したことは評価できる。

(短大)

- ① ○ 大熊町立学び舎ゆめの森（大熊町立小・中学校）からの要望に応じて講師派遣や施設の開放等、大熊町の将来を担う人材の育成を支援した。
- ② ○ 被災市町村及び帰還住民を対象とした復興支援に関する協働・連携事業を実施した。

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
復興支援に関する協働・連携事業	5 件	12 件	5 件	7 件	3 件	3 件

3 管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。

- (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。
【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

(共通)

- ① ○ タブレット端末を利用したペーパーレス会議、電子申請システムの導入等、事務の効率化に努めた。また、コピー用紙購入量は平均 5.8% 減となり、目標の平均 5% 減を達成できた。

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
コピー用紙購入量(目標平均 300 万枚)	317 万枚	336 万枚	272 万枚	254 万枚	307 万枚	301 万枚

- ② ○ 公募により職員を採用した結果、法人職員割合は 47.1% となり、目標の 45% を上回って達成した。

- (2) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。
【特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ シーズ集を発行するとともに、各種技術展示会への参加等により、知的財産の情報発信に努めた。また、技術移転機関（TLO）との連携により、令和 2 年度には実施許諾契約を 1 件締結した。
- ② ○ 特許庁から人材を雇用するとともに、知的財産顧問（弁理士委嘱）を

設置し、専門的助言を受けながら知的財産の獲得・活用に取り組んだ。

- ③ ○ 会津大学学生生活支援寄附金を活用し、学生への経済的支援を実施した。また、会津若松市や民間企業等から奨学寄附金を受け入れ、学生支援及び教員による研究を支援した。
- ④ △ 新型コロナウイルス感染症による外部貸出しを原則禁止していた影響や、産学イノベーションセンターの大規模改修工事に伴う影響により、目標を達成できなかった時期があった。

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
LICTiA・UBIC 使用料(目標 3,200万円)	2,523万 円	2,787万 円	3,122万 円	2,995万 円	2,931万 円	2,806万 円
施設使用料(目 標300万円)	374万円	304万円	65万円	74万円	141万円	202万円

(3) 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。

[特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

(共通)

- ① ○ 法人の認知度向上のため、はやぶさ2プロジェクトへの参加、野生動物検出システム等の研究成果、学生・教職員の表彰実績、産学連携、地域貢献等について積極的に情報発信した。

(4) その他業務運営に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：中期計画をおおむね実施できている」と認められる。

[特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ◎ 新型コロナウイルス感染症対策として、遠隔授業の実施、電子ブックの整備、パーテーションの設置、短大トイレ改修工事等を実施した。
- ② ○ コンプライアンスの徹底を図るため、研究論文剽窃チェックツールの導入や各種研修を開催した。特に、コンプライアンス研修については、対象者を研究者だけでなく修士課程の学生にまで拡大して実施した。
- ③ △ 四大では、学生・教職員の健康診断受診率向上のため、実施日の追加、健康調査のオンライン化、メールによる実施日時等の周知等、受診しやすい環境整備に努めた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、四大学生の健康診断受診率は低下した。

受診率		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
学生	四大	88.3%	90.7%	77.2%	83.3%	80.8%	82.4%
	短大	97.8%	98.4%	98.0%	97.3%	95.9%	100%
教職 員	四大	94.0%	92.5%	94.9%	94.2%	95.9%	95.5%
	短大	100%	100%	100%	100%	100%	100%

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学法人自己評価										評価委員会評価		
	計画達成の状況										項目別評価	評価における特記事項	
第1 大学の教 育研究等 の質の向 上に関する 目標を達 成するため にとるべき 措置	中期	A	35	B	66	C	3	D	0	I			
	年度	A	31	B	71	C	2	D	0				
		A	22	B	46	C	2	D	0				
		(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
	中期	A	11	B	15	C	1	D	0				
		(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
		A	2	B	5	C	0	D	0				
		(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
	年度	A	23	B	46	C	1	D	0				
		(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
	A	7	B	19	C	1	D	0					
	(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。												
	A	1	B	6	C	0	D	0					
	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。												

1	教育に関する目標を達成するための措置	中期	A	23	B	56	C	1	D	0	
			A	19	B	61	C	0	D	0	
			A	12	B	39	C	1	D	0	
			(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
			A	11	B	14	C	0	D	0	
			(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
			A	0	B	3	C	0	D	0	
			(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
			A	12	B	40	C	0	D	0	
			(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
年度	A	7	B	18	C	0	D	0			
	(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。										
	A	0	B	3	C	0	D	0			
	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。										
		I									
		I									

			<p>(1) 入学者受入方針及び入試制度に関する目標を達成するための措置</p>									
			<p>中期 年度</p>	A	7	B	13	C	0	D	0	0
			<p>学士課程における入学者選抜方法の改善、志願者確保のための広報活動、大学院課程における留学生や進学者の確保などについて、計画どおり実施した。</p>									
		中期	A	4	B	2	C	0	D	0		
			<p>(短大) 入学者確保のため、高校訪問、進学説明会、メディアを用いた広報活動を継続し、志願倍率2.0倍以上を維持するなど、計画どおり実施した。</p>									
		年度	A	3	B	11	C	0	D	0		
			<p>(四六) 大学が求める入学者確保のため、積極的な高校訪問などの取組を計画どおり実施した。一般入試の志願倍率、入学者に対する女子学生の割合とともに、目標を達成することができた。</p>									
			A	2	B	4	C	0	D	0		
			<p>(短大) 大学が求める入学者確保のため、入学者受入方針の周知、積極的な高校訪問、受験者アンケートを踏まえた広報改善などの取組を計画どおり実施した。</p>									
	II		<p>【会津大学】 一般選抜の志願倍率は、目標の5.0倍をおおむね達成しているが、少子化等の影響もあるため継続努力が必要。</p> <p>【会津大学短期大学部】 一般選抜の志願倍率は、目標の2.0倍を達成した。</p>									
	I		<p>【会津大学】 入学者に対する女子学生の割合が15%となり、目標を十分に達成した。</p> <p>【会津大学短期大学部】 志願倍率が2.2倍となり、目標の2.0倍を達成した。</p>									

	(2)	教育内容及び教育等の成果等に関する目標を達成するための措置	中期	A	11	B	21	C	1	D	0	【会津大学】 留年制度を導入し、教員と修学支援室が連携して学生への早期支援を行っている。
			年度	A	10	B	23	C	0	D	0	
			中期	A	7	B	16	C	1	D	0	【会津大学短期大学部】 免許・資格取得率向上のため、外部講師の招聘等に取組んでいる。
			(四大)	大学が育成を目指す人物像を理解してもらうため、学位授与方針、教育課程・実施方針の周知・検証や、シラバスの英語化などに取組むことで、概ね計画どおり達成できた。								
			中期	A	4	B	5	C	0	D	0	【会津大学短期大学部】 免許・資格取得率向上のため、外部講師の招聘等に取組んでいる。
			(短大)	大学が育成を目指す人物像を理解してもらうため、学位授与方針、教育課程・実施方針の周知・検証などに取組むことで、概ね計画どおり達成できた。								
			年度	A	7	B	17	C	0	D	0	【会津大学】 JABEE(第三者機関による教育プログラム認証)から国際技術者育成プログラムの認証を取得した。
			(四大)	大学が育成を目指す人物像を理解してもらうため、学位授与方針、教育課程・実施方針の周知・検証や、4学期制の継続、シラバスの英語化などの取組を計画どおり実施した。ICTグローバルプログラム全英語コースの在籍数、英語による授業科目数などは目標値を上回る実績となった。								
			年度	A	3	B	6	C	0	D	0	【会津大学短期大学部】 食物栄養学科ではカリキュラムツリー・マップを整備した。
			(短大)	大学が育成を目指す人物像を理解してもらうため、学位授与方針、教育課程・実施方針の周知・検証などの取組を計画どおり実施した。免許・資格取得希望者の取得率及び資格等取得者の資格関連職への就職率はほぼ計画どおりの実績となった。								

			教育の実施に関する目標を達成するための措置									
			(3)									
中期 年度	A	2	B	9	C	0	D	0	I	【四大・短大共通】 ネットワークシステム等の更新・改善を計画的に実施した。		
										【会津大学】 国際公募により女性教員2名を採用し、女性教員の割合が11.8%となった。		
中期	A	1	B	2	C	0	D	0	I	【会津大学短期大学部】 外部講師を招き、「教育の質保証」をテーマに教員研修会を開催した。		
年度	A	1	B	4	C	0	D	0	I			
中期	A	0	B	3	C	0	D	0	I			
中期	A	1	B	4	C	0	D	0	I			
年度	A	1	B	2	C	0	D	0	I			
年度	A	0	B	3	C	0	D	0	I			

	(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置	中期	A	3	B	13	C	0	D	0
		年度	A	2	B	14	C	0	D	0
		中期	A	1	B	8	C	0	D	0
		(四大) 学生支援に関する方針の検討、全学生への担当教員の配置、就職支援等に取り組むことにより、概ね計画どおり達成できた。								
		中期	A	2	B	5	C	0	D	0
		(短大) 学生支援に関する方針の検討、就職支援、寮の運営改善等に取り組むことにより、概ね計画どおり達成できた。								
		年度	A	1	B	8	C	0	D	0
		(四大) 学生支援に関する方針の検討、全学生への担当教員の配置、就職支援などの取組を計画どおり実施した。創明寮においては、新型コロナウイルス感染症が5類になったことを受け、留学生と日本人学生の相互交流の場を提供することができた。								
		年度	A	1	B	6	C	0	D	0
		(短大) 学生支援に関する方針の検討、就職支援、寮の運営改善などの取組を計画どおり実施した。学生相談室を新設し、学生の相談に適切に対応できる環境を整えた。								
		I	【四大・短大共通】 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、給付金支給や外部からの寄附食料の速やかな配布、オンラインへの対応等に努めた。							
		I	【会津大学】 県内企業見学会や県内企業を含めた合同企業説明会を開催し、県内企業を周知した。 【会津大学短期大学部】 学生相談を2,969件実施した。							

2	研究に関する目標を達成するための措置	中期	年度	A	8	B	9	C	2	D	0	
				A	7	B	10	C	2	D	0	
				A	6	B	6	C	1	D	0	
				(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
				A	0	B	1	C	1	D	0	
				(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
				A	2	B	2	C	0	D	0	
				(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
				A	6	B	6	C	1	D	0	
				(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
年度	I	A	0	B	1	C	1	D	0			
		(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。										
		A	1	B	3	C	0	D	0			
		(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。										

	(1) 研究水準及び研究成果等に関する目標を達成するための措置	中期	A	7	B	7	C	2	D	0	【会津大学】 研究力強化のため、講座制を廃止し、クラスターモデルを導入した。また、学術論文被引用件数、外部資金獲得額、特許出願件数は目標を大きく上回っている。 【会津大学短期大学部】 コロナ禍以前は、公表された研究活動数が目標の100件を達成していたが、人的交流の制限の影響を受け、低迷している。
		年度	A	7	B	7	C	2	D	0	
		中期	A	6	B	6	C	1	D	0	
		中期	<p>(四大)</p> <p>研究科、学部各部門、各センターや学内横断的な研究に取り組むことで、計画どおり達成できた。</p> <p>(四大)</p> <p>基礎的研究、応用的研究、地域実践研究を行い、その成果の公表に取り組むことで、計画どおり達成できた。</p> <p>(四大・短大共通)</p> <p>外部資金獲得に取り組むことで、計画どおり達成できた。</p>								
		年度	A	0	B	1	C	1	D	0	
		中期	A	1	B	0	C	0	D	0	
		年度	A	6	B	6	C	1	D	0	【会津大学】 学術論文被引用件数が7,455件となり、目標の3,000件を大幅に上回る実績となった。 【会津大学短期大学部】 公表された研究活動数が60件となり、目標の100件を達成できなかった。
		中期	A	0	B	1	C	1	D	0	
		年度	A	1	B	0	C	0	D	0	

(2)	研究の実施等に関する目標を達成するための措置	中期	A	1	B	2	C	0	D	0
		年度	A	0	B	3	C	0	D	0
		中期	A	1	B	2	C	0	D	0
			(四大・短大共通) 研究に必要な施設・設備の適切な維持管理、学内研究費の効果的な見直し、研究費適正執行等に取り組むことで、概ね計画どおり達成できた。							
年度	A	0	B	3	C	0	D	0		
3	国際化に関する目標を達成するための措置	中期	A	4	B	1	C	0	D	0
		年度	A	5	B	0	C	0	D	0
		中期	A	4	B	1	C	0	D	0
			(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。							
年度	A	5	B	0	C	0	D	0		
(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。全学生数に対する外国人留学生数の割合は目標値を大きく上回る実績となった。										
		II								
		II								
		I								
		I								

中期 年度	A	19	B	9	C	1	D	0	
	A	19	B	8	C	1	D	1	
中期	A	16	B	6	C	1	D	0	
	(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
	A	3	B	2	C	0	D	0	
	(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
年度	A	0	B	1	C	0	D	0	
	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
	A	16	B	5	C	1	D	1	
	(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
年度	A	3	B	2	C	0	D	0	
	(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
	A	0	B	1	C	0	D	0	
	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								

地域貢献・
東日本大
震災等の
復興支援
に関する目
標を達成
するために
とるべき措
置

第2

1	地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置	中期	A	9	B	6	C	1	D	0		
		年度	A	10	B	5	C	1	D	0		
		中期	A	6	B	5	C	1	D	0		
			(四大)	公開講座、先端ICT人材育成、協定締結自治体や県立医科大学との連携した取組、ロボット事業等を継続することで、計画どおり達成できた。								
			A	3	B	0	C	0	D	0		
		中期	(短大)	一般市民向けの公開講座、地域活性化センターを中心とした地域との協働・連携などの取組等を継続することで、計画どおり達成できた。								
			A	0	B	1	C	0	D	0		
			(四大・短大共通)	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、施設等の外部貸出に取り組み、計画どおり達成できた。								
		年度	A	7	B	4	C	1	D	0		
			(四大)	一般市民向けの公開講座、先端ICT人材育成、協定締結自治体や県立医科大学との連携した取組などを年度計画どおり実施した。ロボット事業における浜通りの高校生への人材育成やAOI会議の県内への展開は計画を上回って実施できた。								
A	3		B	0	C	0	D	0				
年度	(短大)	一般市民向けの公開講座、地域活性化センターを中心とした地域との協働・連携などの取組を年度計画どおり実施し、派遣講座数は目標値を上回った。										
	A	0	B	1	C	0	D	0				
	(四大・短大共通)	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、2023年5月以降は貸出を再開することで、利用件数・使用料収入とも前年度を上回ったが、感染症拡大前の水準までは回復していない。										

2	地域産業の振興に関する目標を達成するための措置	中期	A	5	B	0	C	0	D	0
		年度	A	4	B	0	C	0	D	1
		中期	A	5	B	0	C	0	D	0
		(四大) 「女性のためのITキャリアアップ塾」を通じた県内就労支援、地域企業との積極的連携、A01会議の全県的展開などに取り組むことで、計画どおり達成できた。	A	4	B	0	C	0	D	1
3	復興支援に関する目標を達成するための措置	年度	A	5	B	3	C	0	D	0
		中期	A	5	B	3	C	0	D	0
		年度	A	5	B	1	C	0	D	0
		(四大) A01会議の積極的な開催、県立医大や県警本部と連携した取組、ロボット人材育成などの取組等を継続することで、計画どおり達成できた。	A	0	B	2	C	0	D	0
I	復興支援に関する目標を達成するための措置	中期	A	5	B	1	C	0	D	0
		年度	A	5	B	1	C	0	D	0
		中期	A	5	B	1	C	0	D	0
		(四大) A01会議の積極的な開催、県立医大や県警本部と連携した取組、ロボット人材育成などの取組等を継続することで、計画どおり達成できた。	A	0	B	2	C	0	D	0
I	復興支援に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	2	C	0	D	0
		中期	A	5	B	1	C	0	D	0
		年度	A	0	B	2	C	0	D	0
		(短大) 「学び舎ゆめの森(旧 大熊町立小・中学校)」への支援、地域との協働連携の取組等を、計画どおり実施した。	A	0	B	2	C	0	D	0

中期 年度	A	4	B	39	C	3	D	0	
	A	4	B	41	C	1	D	0	
中期	A	2	B	3	C	2	D	0	
	(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
	A	0	B	4	C	0	D	0	
	(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
年度	A	2	B	32	C	1	D	0	
	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
	A	1	B	5	C	1	D	0	
	(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
年度	A	1	B	3	C	0	D	0	
	(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
	A	2	B	33	C	0	D	0	
	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								

第3
管理運営
の改善及
び効率化
に関する目
標を達成
するために
とるべき措
置

1	業務運営及び効率化に関する目標を達成するための措置	中期	A	2	B	8	C	0	D	0	II	
		年度	A	1	B	9	C	0	D	0		
	(1)	中期	A	2	B	8	C	0	D	0	II	
		年度	A	1	B	9	C	0	D	0		
	組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	中期	A	1	B	7	C	0	D	0	II	県派遣職員から法人職員への切替を計画的に実施し、法人職員の割合を47.1%にした。
		年度	A	1	B	7	C	0	D	0		
	(2)	中期	A	1	B	7	C	0	D	0	II	女性管理職を複数名配置しており、目標を達成している。
		年度	A	0	B	2	C	0	D	0		
	事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	中期	A	1	B	1	C	0	D	0	I	コピー用紙の購入量を削減し、目標の平均5%減を達成した。
		年度	A	0	B	2	C	0	D	0		
		中期	A	1	B	1	C	0	D	0	II	ワークフローシステムを導入することで、事務手続きの一部について電子申請を開始した。
		年度	A	0	B	2	C	0	D	0		

2	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	8	C	1	D	0		
			年度	A	0	B	8	C	1	D	0	
				A	0	B	0	C	1	D	0	
			(四大)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
				A	0	B	1	C	0	D	0	
			(短大)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
		年度		A	0	B	7	C	0	D	0	
			(四大・短大共通)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
				A	0	B	0	C	1	D	0	
			(四大)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。								
年度		A	0	B	1	C	0	D	0			
	(短大)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。										
		A	0	B	7	C	0	D	0			
	(四大・短大共通)	予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。										

			<p>外部研究資金等の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1)</p>									
			中期	A	-0	B	4	C	1	D	0	
年度			A	0	B	4	C	1	D	0		
			A	0	B	0	C	1	D	0		
			<p>(四大)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、施設等の外部貸出に組み、概ね計画どおり達成できた。</p>									
中期			A	0	B	1	C	0	D	0		
			<p>(短大)</p> <p>寄附金確保のための取組等に継続して取り組むことで、概ね計画どおり達成できた。</p>									
			A	0	B	3	C	0	D	0		
			<p>(四大・短大共通)</p> <p>保有する技術の発信のためのシーズ集作成や学生支援のための寄付金受入に継続して取り組むことで、概ね計画どおり達成できた。</p>									
			A	0	B	0	C	1	D	0		
			<p>(四大)</p> <p>施設使用料の収入について、LICTIA等では概ね年度計画どおり実施することができた。その他の施設については、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、2023年5月以降は貸出を再開することで、利用件数・使用料収入とも前年度を上回った。</p>									
年度			A	0	B	1	C	0	D	0		
			<p>(短大)</p> <p>寄附金確保のための取組を計画どおり実施し、学生表彰規定に基づき奨学金を支給した。</p>									
			A	0	B	3	C	0	D	0		
			<p>(四大・短大共通)</p> <p>保有する技術の発信のためのイベントに参加し、技術展示や説明等を行った。また、学生支援のための寄付金受入の取組を計画どおり実施した。</p>									
			<p>【四大・短大共通】</p> <p>「会津大学学生生活支援基金」を設置し、寄附金の募集を開始した。また、この基金を活用し、コロナ禍における学生支援のため、現金やプリペイドカードの支給等を実施した。</p>									
			<p>【会津大学】</p> <p>奨学寄付金を3,583万円受入れ、学生支援及び研究支援を実施した。</p>									
			<p>【会津大学短期大学部】</p> <p>紅翔奨学金の寄附金を広く募るとともに、12人の学生に奨学金を支給した。</p>									

(2)	経費の抑制に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	4	C	0	D	0	II	毎年度、財務レポートを作成し、ホームページで公表した。	
		年度	A	0	B	4	C	0	D	0			
		中期	(四大・短大共通) 財務状況分析や法人会計制度の研修、財務会計システムの評価等を継続することにより、概ね計画どおり達成できた。										
3	自己点検・評価及び情報提供に関する目標を達成するための措置	年度	A	0	B	4	C	0	D	0	II	インボイス制度への対応のため、システム改修等を実施した。	
		中期	A	0	B	6	C	1	D	0			
		年度	A	0	B	7	C	0	D	0			
(1)	評価の充実に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	6	C	1	D	0	II	教員の業務評価結果の反映方法構築についで、中期計画を達成することができなかった。	
		年度	A	0	B	7	C	0	D	0			
		中期	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。										
		年度	A	0	B	7	C	0	D	0	II		
		中期	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。										
		年度	A	0	B	4	C	1	D	0			
		中期	A	0	B	4	C	0	D	0	II		
		年度	A	0	B	5	C	0	D	0			
		中期	(四大・短大共通) 法人の自己点検評価等の取組や事務職員等の取組や事務職員等の取組の継続した運用、教員業績評価の見直しを進めることにより、概ね計画どおり達成できた。										
		年度	A	0	B	5	C	0	D	0	II		
		中期	(四大・短大共通) 法人の自己点検評価等の取組や事務職員等の取組や事務職員等の取組の継続した運用、教員業績評価の見直しを進めることにより、概ね計画どおり達成できた。										
		年度	A	0	B	5	C	0	D	0			

	(2)	情報発信の推進に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	2	C	0	D	0	教育・研究成果、学生・教職員の受賞状況、産学連携、地域貢献等について、積極的に情報発信した。	II	
			年度	A	0	B	2	C	0	D	0			
	4	その他業務運営に関する目標を達成するための措置	中期	(四大・短大共通) 引き続き適切な情報公開に努め、大学の活動を積極的に発信することにより、概ね計画どおり達成できた。									「SLIMの月面着陸」等の研究活動成果等をホームページに掲載した。	II
年度			A	0	B	2	C	0	D	0				
中期			A	2	B	17	C	1	D	0	II			
年度			A	3	B	17	C	0	D	0				
中期			A	2	B	3	C	1	D	0				
年度			(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
中期			A	0	B	3	C	0	D	0				
年度			(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
中期			A	0	B	11	C	0	D	0				
年度			(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。											
中期	A	1	B	5	C	0	D	0						
年度	(四大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。													
中期	A	1	B	2	C	0	D	0	II					
年度	(短大) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。													
中期	A	1	B	10	C	0	D	0						
年度	(四大・短大共通) 予定どおり実施し、概ね計画どおり達成できた。													

(1)	法令遵守に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	3	C	0	D	0	法令遵守やハラスメント防止について、継続して取り組む必要がある。
		年度	A	1	B	2	C	0	D	0	
		中期	A	0	B	3	C	0	D	0	
(2)	施設設備や情報通信基盤の整備活用等に関する目標を達成するための措置	中期	(四大・短大共通) 法令遵守等に関する研修を開催し、教職員の理解の向上を図ること等により、概ね計画どおり達成できた。								【四大・短大共通】 図書館のICタグ導入に向け、計画的に準備を進めている。
		年度	A	1	B	2	C	0	D	0	
		中期	(四大・短大共通) 研修会の実施だけでなく、年度初めの部局長会議等、機会を捉えて行動規範の周知徹底を指示したほか、適宜コンプライアンス徹底の注意喚起を図り、計画どおり実施した。								
(2)	施設設備や情報通信基盤の整備活用等に関する目標を達成するための措置	中期	A	2	B	6	C	0	D	0	【四大・短大共通】 図書館のICタグ導入に向け、計画的に準備を進めている。
		年度	A	1	B	7	C	0	D	0	
		中期	A	2	B	2	C	0	D	0	
(2)	施設設備や情報通信基盤の整備活用等に関する目標を達成するための措置	中期	(四大) 情報セキュリティ対策や付属図書館の利用環境整備に取り組むことで、概ね計画どおり達成できた。								【四大・短大共通】 図書館のICタグ導入に向け、計画的に準備を進めている。
		年度	A	0	B	2	C	0	D	0	
		中期	(短大) セキュリティ・インシデントの注意喚起や図書館の狭小化対策に取り組むことで、概ね計画どおり達成できた。								
(2)	施設設備や情報通信基盤の整備活用等に関する目標を達成するための措置	中期	A	0	B	2	C	0	D	0	【四大・短大共通】 施設修繕計画に基づいた施設整備を進めることにより、計画どおり達成できた。
		年度	A	0	B	2	C	0	D	0	
		中期	(四大・短大共通) 施設修繕計画に基づいた施設整備を進めることにより、計画どおり達成できた。								

